

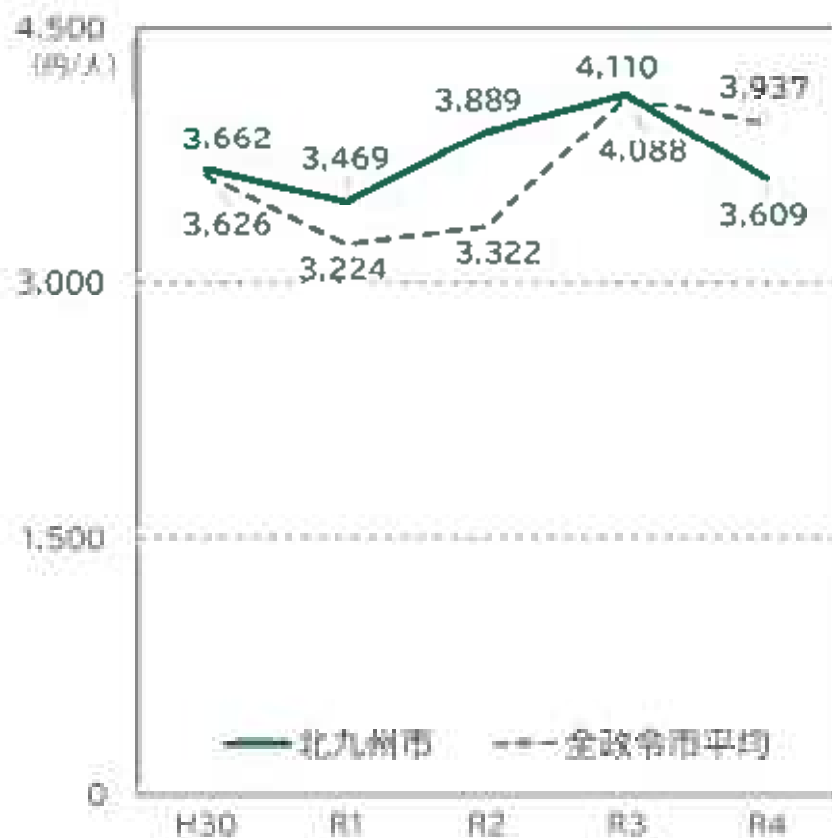
文化振興施策クラスター 経営分析の主な検討状況

令和6年8月21日
北九州市

文化振興に関する予算の政令市比較

- 人口1人あたりの芸術文化関連経費は、他政令市と比較して同程度
- 一方で、人口1人あたりの**文化施設経費は常に政令市平均を上回っている(1.4倍)**

人口1人あたりの芸術文化関連経費の推移



人口1人あたりの文化施設経費の推移

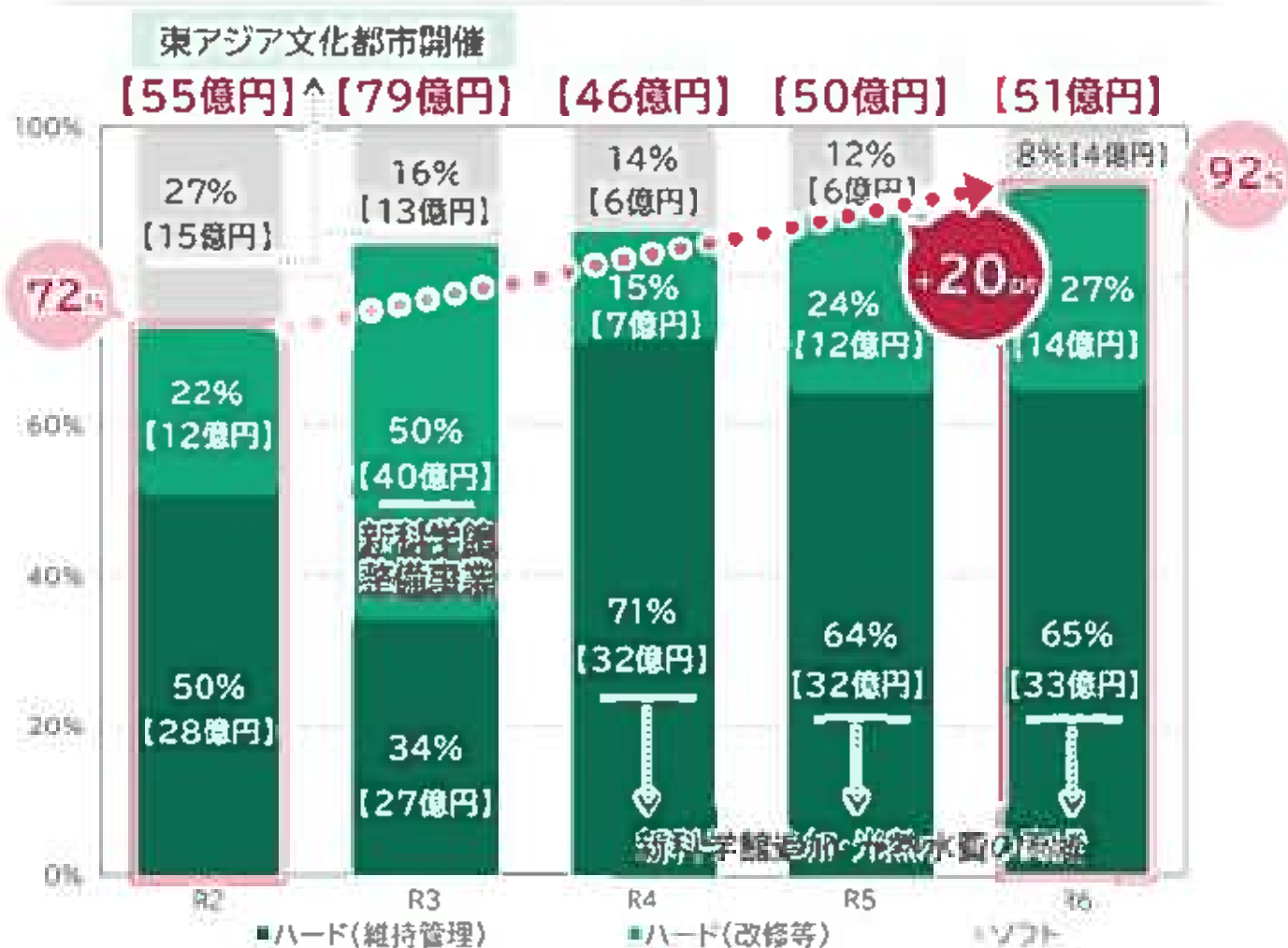


出所/文化庁「地方における文化行政の状況について」
政令市、各年1月1日住民基本台帳人口

文化振興に関する予算の状況

- 施設の老朽化や光熱水費の高騰を受けて、文化関連施設の改修費用や維持管理費が**増大(+20pt)**を続ける中、文化関連ソフト事業の予算が減少を続けている(▲19pt)

文化振興に関する予算と内訳の推移



文化関連施設の設置状況(ハード)

- 北九州市の文化関連施設20施設中9施設が築30年を超えるなど、**老朽化した施設が多い**

● 主に博物館系(11施設)

直営

施設名	所在地	築年数
自然史・歴史博物館	八幡東区東田	22年
美術館本館	八幡区朝か谷町	50・37年
分館【休館中】	小倉北区宝町	21年
黒崎市民ギャラリー	八幡西区黒崎	11年
漫画ミュージアム	小倉北区浅野	31年
科学館	八幡東区東田	2年
科学館分館	八幡東区東田	18年
こども文化会館	小倉北区下道津	45年
文学館	小倉北区城内	49年
松本清張記念館	小倉北区城内	26年
長崎街道木屋瀬記念館	八幡西区木屋瀬	23年

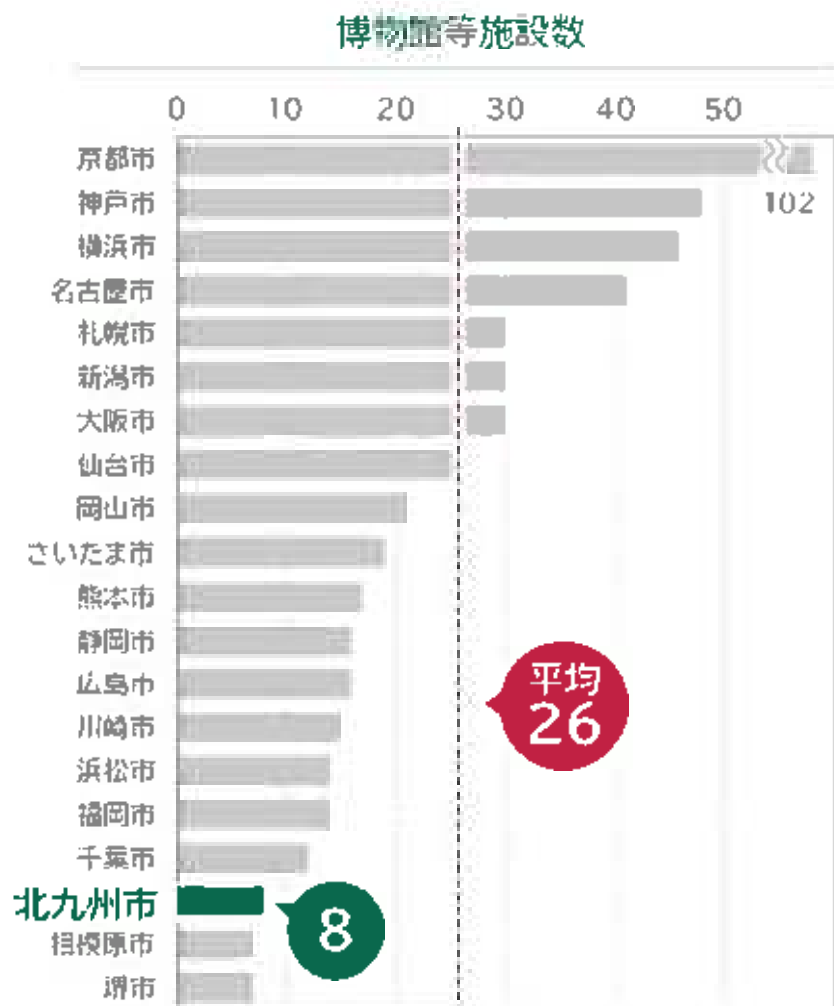
● 主にホール系(9施設)

指定管理等

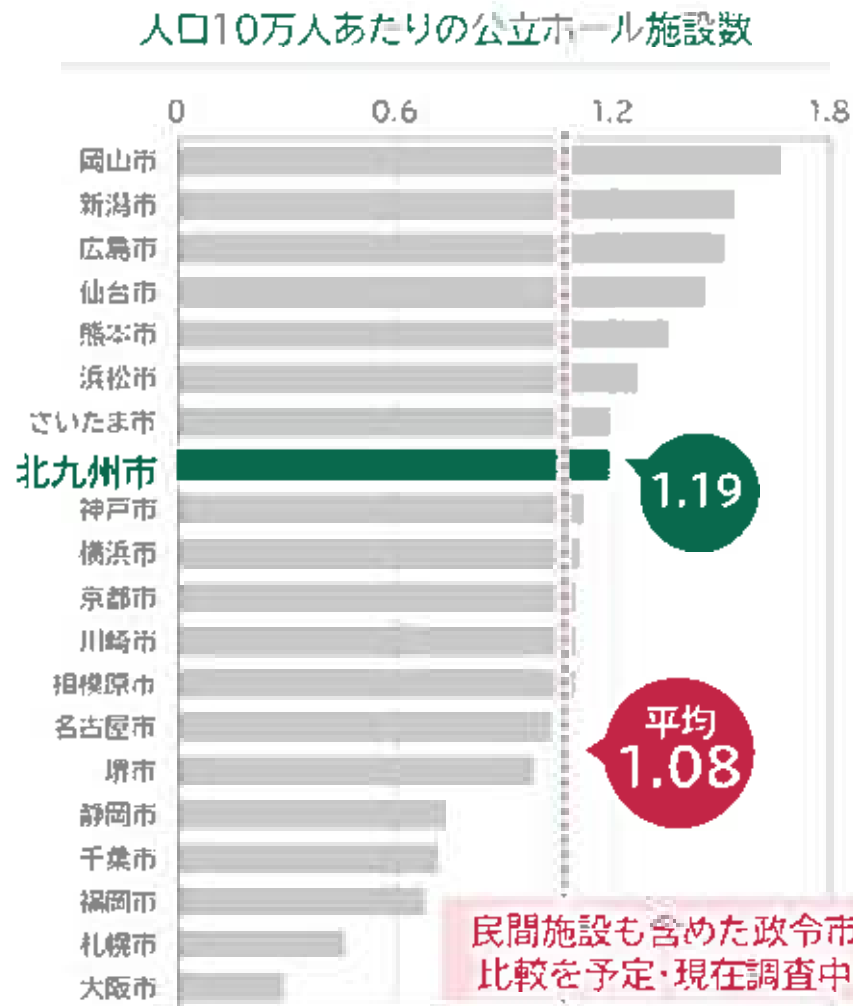
施設名	所在地	築年数
北九州芸術劇場	小倉北区宝町	21年
響ホール	八幡東区平野	31年
黒崎文化ホール	八幡西区岸の浦	12年
門司市民会館	門司区老松町	66年
若松市民会館	若松区本町	39年
戸畑市民会館	戸畑区浅井町	22年
大手町練習場	小倉北区大手町	29年
旧百三十三銀行ギャラリー	八幡東区西本町	109年
北九州ソレイユホール	小倉北区大手町	40年

文化関連施設の政令市比較

- 政令市比較では、博物館等施設は少ないが、ホール施設数は平均より多い



出所)令和4年大都市比較統計年表



出所)(公社)全国公立文化施設協会「令和5年度全国公立文化施設名簿」

文化関連施設全体の収支の推移

- 文化施設の維持管理費は年間約30億円で推移してきた
- 令和4年度は科学館の開館と物価高騰により、維持管理費が約5億円増額
- 文化施設の利用料等の収入は年間4～5億円程度(維持管理費の約12%)



主要文化関連施設の収支比率(令和4年度)

- 収支比率は、貸館中心のホール系施設(12%)と比べて博物館系施設(15%)がやや良好

種別	施設名	収入(百万円)			支出(百万円)						収支比率 (A)÷(B)	施設数 (件数)
		使用料	その他	計(A)	人件費	修繕費	光熱水費	委託料	その他	計(B)		
博物館系施設 (国庫)	自然史・歴史博物館	124	25	149	255	5	52	164	63	591	25%	35
	美術館	27	0	27	139	4	37	90	146	417	7%	19
	漫画ミュージアム	13	3	16	74	0	6	77	68	225	7%	11
	科学館	85	1	86	111	0	30	216	151	508	17%	23
	文学館	2	8	9	70	2	7	42	29	146	6%	7
	松本清張記念館	7	3	10	59	1	9	41	7	117	9%	7
	長崎街道外郎源兵衛記念館	2	0	2	18	0	4	21	1	45	4%	4
	小計	261	39	300	725	15	176	671	462	2,048	15%	106
ホール系施設 (指定管理等)	北九州芸術劇場	40	0	40	0	0	0	943	0	943	4%	貸館施設 (指定管理)
	盛ホール	23	4	27	0	0	0	150	0	150	18%	
	黒崎文化ホール	47	7	54	0	0	0	173	0	173	31%	
	門司市民会館	3	0	3	0	0	0	53	0	53	6%	
	苅原市民会館	8	0	8	0	0	0	75	0	75	11%	
	戸畑市民会館	25	0	25	0	0	0	114	0	114	22%	
	北九州ソレイユホール	0	24	24	民間事業者による独立採算のため、市の負担なし				0	0	-	
小計	146	35	181	0	0	0	1,508	0	1,508	12%	0	
合計	407	75	481	725	15	176	2,179	462	3,556	14%	106	

出所)北九州市公共施設白書

文化芸術関連施設の他都市類似館との比較

- 文化芸術関連施設を3～5の他都市類似館と比較した結果、美術館・漫画ミュージアム、文学館、北九州芸術劇場で、入場者一人当たりの行政負担額が高いことが分かった

施設名	入場者一人あたりの負担額(千円/人)		
	比較結果	北九州市	類似館平均
自然史・歴史博物館	低い	1.0	2.7
美術館	高い	3.3	1.9
漫画ミュージアム	高い	2.4	1.0
科学館	低い	1.0	1.4
文学館	高い*	3.8	3.7
松本清張記念館	低い	3.8	4.7
長崎街道木屋瀬宿記念館	低い	1.4	4.3
北九州芸術劇場	高い	5.0	1.1

* 文学館は類似館平均と同程度であるが、入場者一人当たりの負担額が2.1倍と平均値引上げの幅があったため、比較結果は「高い」と判定

文化振興施策に関する変革のSTEP

- 文化振興施策の持続可能性を高め、「彩りあるまち」を実現するために、まずは、**現場が抱える課題や利用者の声を把握し、問題意識を整理した上で、ユーザー目線の変革**に取り組んでいく

STEP1

問題意識を整理する

今回

STEP2

現状を把握し分析する

STEP3

解決すべき課題を特定する

STEP4

課題解決の方向性を決定する

スケジュール
検討の体制 など

STEP5

課題解決に向けて具体的に取組を実行する

ユーザー目線を踏まえた
文化振興施策の変革

文化芸術関連施設等の主な問題意識

- まずは、個別の文化芸術関連施設等について、個別に時間軸ごとに問題意識を整理

	ソフト(展示・コンテンツ)	ハード(施設)	資源(予算・人員)・他
短期 A 年度内	<ul style="list-style-type: none"> ①施設運営改善に向けた、ユーザー目線でのアンケート調査等が十分でない ②ユニバーサル対応やインバウンド対応など、多様な来館者への対応が十分でない 	<ul style="list-style-type: none"> ①禁止表示が多いなど、館内掲示が来館者に寄り添った表示になっていない ②チラシやポスターが未分類で掲示されており、ユーザーへの情報提供機能として不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ①予算や人員が不足のため、収蔵作品のデータベース化などが遅れている ②人員不足のため、ユーザー満足度の更なる向上に向けた、収蔵作品の利活用が十分でない
中期 B 3-5年	<ul style="list-style-type: none"> ①予算不足によって、常設展リニューアルが十分でないため、社会環境やニーズの変化を踏まえた柔軟な対応が必要 ②物価高騰等の影響によって、集客力のある、海外の大型企画展などの誘致が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ①館内で食事ができるスペースがなく、家族連れや団体等が食事をできないため、民間も含め同業施設と連携した対応が必要 ②施設の機能を維持するために、展示施設やEVなど、設備のメンテナンスや改修が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ①維持管理費の増加に伴う予算圧迫と人員不足により、新たな集客施策の企画・実施が難しい ②施設の設置目的を効率的・効果的に達成するため、新しいニーズの獲得に向けた、多彩な取り組みが必要
長期 C 5-10年	<ul style="list-style-type: none"> ①長期的な視点に立った、常設展などの大規模リニューアルの計画が必要 ②ARやVRなど、最新技術の導入による、施設の魅力向上が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ①築30年を超える施設も多く、施設の老朽化対策が必要 ②収蔵品を保管する、収蔵庫のスペース確保が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ①来館者の要求ニーズに対応するため、研究機能の維持・向上が重要であり、長期的に学芸員の確保・育成が必要 ②地元ボランティアの協力で、経費を抑えているが、高齢化によって、将来的に対応が難しくなる



概況

- 【短期】 供給者目線の施設運営となっており、ユーザー目線でのサービス提供が不十分
- 【中期】 予算不足によって、ニーズを踏まえた魅力的なコンテンツの提供が不十分
- 【長期】 施設老朽化に伴う大規模改修や長期的な専門の学芸員の確保・育成が必要

自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)の概要



- 小中学生以下の子どもを含む、ファミリー層の利用が多い
- 令和4年度以降は入館者数が40万人を超えるなど、新型コロナウイルス感染症拡大前に近い状況まで回復している

施設概要

項目	内容
設置目的	歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、深掘り(育成を含む)し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする
所在地	八幡東区東田2丁目4-1
開館時間	9:00~17:00(年末年始・害虫駆除期間除く)
開設時期	平成14年

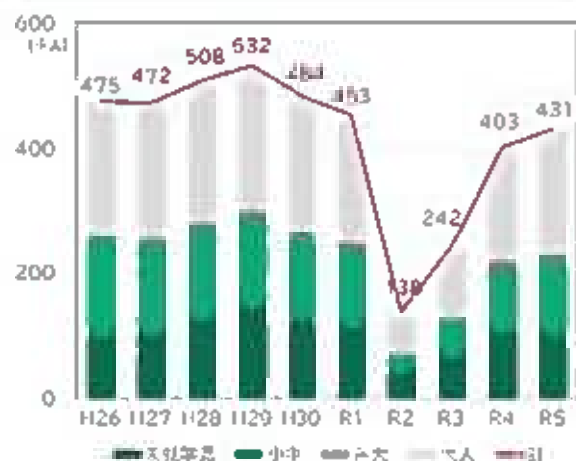
理念

自然と人間の関わりを考える共生博物館

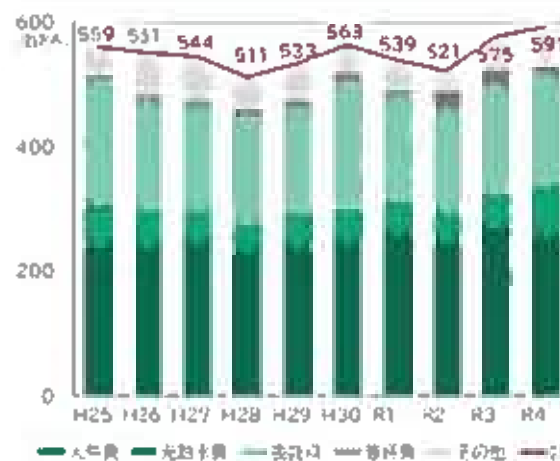
- 1 博物館の展示において示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

その他

入館者の推移



維持管理費の推移



- 入館者数以外の設置目的や理念等を踏まえた、特筆すべき実績としては、自然史・歴史ゾーンの展示リニューアルを実施
- 外部委員で構成する博物館協議会を設置し、毎年、良好な評価を受けるとともに、指摘を受けた点については翌年度内に改善している。
- 今後、注力する内容として、コロナ禍以前の来館者数(50万人/年)の回復を目指す

I 自然史・歴史博物館の主な問題意識

	ソフト(展示・コンテンツ)	ハード(施設)
短期 A 年度内	<ul style="list-style-type: none"> ①新規・リピーター確保に向けた新しい資料を常設展に反映できていない(資料保存の観点からも約1~2年スパンで更新が理想なものがある) ②HPに文字が多く、迫力ある恐竜骨格標本のビジュアルが少ないなど、館の魅力を十分に伝えきれてない ③教員が学習指導で活用する「博物館利用の手引き」が古いのでアップデートが必要 ④施設や展示内容・広報の手法などを改善するための、ユーザー目線でのアンケートが不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ①エントランスに設置している「チケット購入が不要な方へ」の案内表示など、来館者の気持ちに寄り添った表示ができていない ②館内掲示が古く、メンテナンスが行き届いていないものがあるため、来館者の博物館全体のイメージダウンにつながる恐れがある
中期 B 3-5年	<ul style="list-style-type: none"> ①大半が見る・触れるだけの展示であり、来館者が自ら動かすものやゲーム性のある展示が少ないため、理解を深める展示としてさらなる工夫が必要 ②子ども用や外国人向けの展示解説が不十分である ③ボランティアが展示案内や講座等のサポートなどを行っているが、来館者ニーズを把握し、更なるサービスの向上に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ①館内の食事は団体利用に限られているため、家族連れ等が食事できるスペースが屋外にしかなく、館内で食事ができない ②開館から20年を越えているため、展示施設やエアコン等機器の予防保全の観点でのメンテナンスや改修が必要
長期 C 5-10年	<ul style="list-style-type: none"> ①展示の大規模リニューアルに関する中・長期計画や、手狭になった展示室等の拡張計画がない ②技術革新の途上にあるARやVR等の新技術に関する調査・研究の上、館の魅力アップに向けた活用を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ①収集資料が毎年増加し、収蔵庫不足が顕著であり、近隣施設の有効活用が必要 ②施設の老朽化対策や来場者数に見合ったエントランスの広さが確保できてない



概況

- 【短期】 展示やHP、館内掲示などが古いため、ユーザー目線でのアップデートが必要
- 【中期】 多様なユーザーが楽しみ、理解を深めることができる展示の工夫が必要
- 【長期】 中長期的な大規模リニューアル計画の策定や施設の老朽化対策が必要

自然史・歴史博物館と他都市類似館との比較

※ 入場者数・支出・収入…R4時点
 ※ 支出・収入は行政に帰属するものを計上
 ※ 職員数…R6.4.1時点(課長除く)

- 都道府県規模の博物館と比較しても、多くの入場者を集めている
- 他都市類似館と比較して、入場者1人あたりの行政の負担額は低い(1.0千円)

施設名	【北九州市】 自然史・歴史 博物館	博物館A (関東県立)	博物館B (近畿県立)	博物館C (近畿県立)	博物館D (近畿県立)
入場(R5.10.1)	914,620	約2,800,000	約1,400,000	約1,700,000	約5,300,000
運営方法	直営	直営	直営	直営+指定管理	直営
展示面積(m) (学芸員1人あたり)	6,232 (328)	4,145 (259)	6,106 (120)	2,075 (122)	4,350 (140)
収蔵品数(件) (学芸員1人あたり)	約86万 (約45,263)	445,296 (27,831)	1,508,885 (29,586)	632,790 (37,223)	2,120,148 (68,391)
入場者数(人)[A]	402,819	448,090	415,931	131,690	180,190
(人) 職員数	事務員	16	53	12	31
	学芸員	19	16	51	31
支出(千円)[B]	591,411	1,103,557	1,037,192	584,026	912,387
収入(千円)[C]	174,820	129,732	578,692	249,646	39,121
入場者1人あたりの 負担額[B-C]/[A](千円)	1.0	2.2	1.1	2.5	4.8

※ 支出・収入は他都市比較用に整理しており、施設概要等と数字が異なる場合がある

北九州市立美術館(本館)の概要

- 美術の森公園に設置された建物は、磯崎新の美術館建築における初期代表作であり地域のランドマーク的存在である
- 近現代美術作品を中心に、約8千点を収集・保存している
- 山の上にあり、アクセスが悪い



施設概要

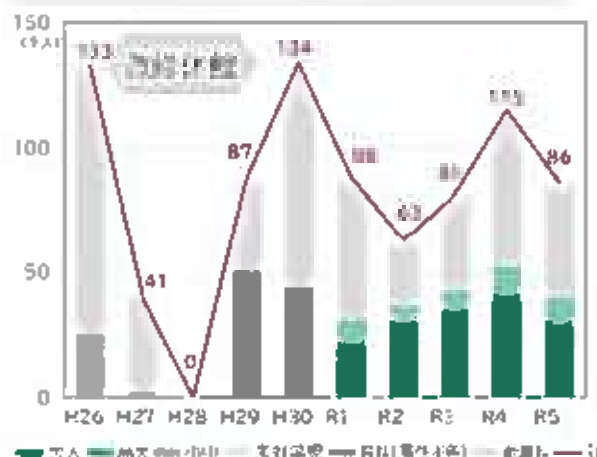
項目	内容
設置目的	美術品の展示等を行うことにより芸術、文化等の発展向上に寄与する。
所在地	戸畑区西鞆ヶ谷町21番1号
開館時間	9:30~17:30
開設時期	昭和49年

理念

市民と生活に潤いと心の豊かさを創出し、地域とともに成長していく美術館

- 1 文化資源の伝承、作品の保存・修復
- 2 作品世界を多様に、存分に味わうための鑑賞機会の創出
- 3 地域とともに成長するための美術館体験の提供とボランティアの育成
- 4 美術の魅力発信
- 5 魅力的な美術館体験の伝承

入館者の推移



維持管理費の推移



その他

- 美術館協議会設置
- 開館当初から先駆的な美術ボランティア制度を導入
- 今後は、デジタル技術等を活用して、アート体験を提供する仕組み作りに着手

美術館の主な問題意識

	ソフト(展示・イベント)	ハード(施設)	資源(予算・人員)・他
短期 A 年度内	<ul style="list-style-type: none"> ①アンケート調査等による市民ニーズの把握が不十分である ②魅力あるホームページになっていない ③美術館は社会教育施設であり、観光施設の意識が薄いため、来場者へのサービスが十分でない 	<ul style="list-style-type: none"> ①デジタルサイネージなど、来場者がわかりやすい案内表示がない ②館内が古く、ひびわれ、雨漏りなど修繕が必要 ③予算上、草刈りが年に数度しかなく、美術館としてふさわしい美観が保てていない 	<ul style="list-style-type: none"> ①学芸員10人中5人が会計年度職員であり、展覧会の実施に追われているため、収蔵作品のDB化やオンライン鑑賞等が遅れている
中期 B 3-5年	<ul style="list-style-type: none"> ①館内のマップパンフレット(多言語)がないため、来場者が観覧しづらい ②企画展と市民展が混在しており、美術館の方向性が分かりづらい ③美術館の強みである、SNS映えする景色の良さや非日常感等を活用した演出や広報が十分でない 	<ul style="list-style-type: none"> ①著名な磯崎建築であるため、施設の改修等に制約が多く、わかりやすい案内表示の設置やショップの拡張が困難 ②アクセスが悪いが、予算の制約上、シャトルバスの確保が難しい。 ③駐車場の数が少ないため、人気の企画展では、混雑する 	<ul style="list-style-type: none"> ①維持管理費の増加(2年間で14%増)に伴う予算圧迫と人員不足により、施設の立地や魅力を活かした、新たな集客施策の企画・実施が難しい ②デジタル化を推進する新規予算の獲得が難しい
長期 C 5-10年	<ul style="list-style-type: none"> ①社会情勢の変化と人件費、物価の高騰のため、集客力の高い、海外の大型企画展誘致が困難 ②美術に求められるものが多様化しており、来場者のニーズに対応した企画展の開催が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ①施設が老朽化しているため、美術館機能の存続に必要な維持管理費が高額(アネックス修繕費10億、年間の維持管理費1.8億) ②収蔵品は増加するが、収蔵庫の拡張が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ①事務職は短期で異動し、長期的な企画への関与が難しい ②学芸員の昇任ポストが少なく、人材育成が困難



概況

- 【短期】 市民ニーズの把握が十分でなく、ユーザー目線のサービス提供が不十分
- 【中期】 館の強みを活かした運営や弱みへの対応が不十分
- 【長期】 施設の老朽化対策に多額の経費が必要

美術館と他都市美術館との比較

※ 入場者数・支出・収入…R4時点
 ※ 支出・収入は行政に帰属するものを計上
 ※ 職員数…R6.4.1時点(課長除く)

- 他都市類似館と比較して、入場者1人あたりの行政の負担額は高い(3.3千円)

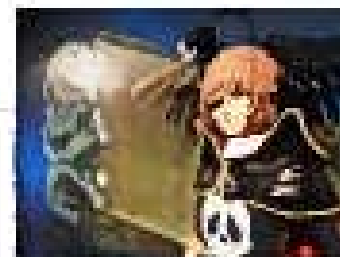
施設名	【北九州市】 美術館	美術館A (九州政令市立)	美術館B (中国政令市立)	美術館C (東海政令市立)	美術館D (東北政令市立)	
人口(R5.10.1)	914,620	約1,600,000	約1,100,000	約2,300,000	約770,000	
運営方法	直営	直営+PFI	指定管理	直営	直営	
展示面積(mi) (学芸員1人あたり)	2,573 (233)	4,228 (352)	2,128 (266)	2,304 (209)	5,550 (925)	
収蔵品数(件) (学芸員1人あたり)	7,951 (722)	16,387 (1365)	1,868 (233)	9,550 (868)	5,147 (857)	
企画展数(回) (学芸員1人あたり)	5 (0.45)	7 (0.58)	5 (0.62)	3 (0.27)	3 (0.5)	
入場者数(人)[A]	114,935	431,569	141,264	254,315	49,489	
職員数 (人)	事務職	12	5	9	12	5
	学芸員	7	12	8	11	6
支出(千円)[B]	401,524	365,086	344,172	473,593	191,910	
収入(千円)[C]	27,102	65,238	20,089	138,933	33,877	
入場者1人あたりの 負担額(B-C)÷(A) [D]	3.3	0.7	2.3	1.3	3.2	

※ 支出・収入は他都市比較用に整理しており、施設運営等と数字が異なる場合がある

出所) R6北九州市聞き取り調査より



漫画ミュージアムの概要



- 博物館機能と図書館機能を併せ持ち、「見る」・「読む」・「描く」の3方向から漫画の魅力体験でき総合的な漫画施設

施設概要

項目	内容
設置目的	北九州ゆかりの漫画家とその作品(財産)を次の世代に伝え、漫画文化の特性や魅力を発信することを目的に開館。漫画原画や資料を収集・保存・展示する博物館機能と、幅広いジャンルの漫画図書を読覧できる図書館機能を併せ持ち、漫画に関する人材育成と漫画を通じた交流の場を提供することを目的とする。
所在地	小倉北区浅野2丁目14-5 あるあるCity5.6階
開館時間	11:00~19:00(火曜日、年末年始は休館)
開設時期	平成24年8月

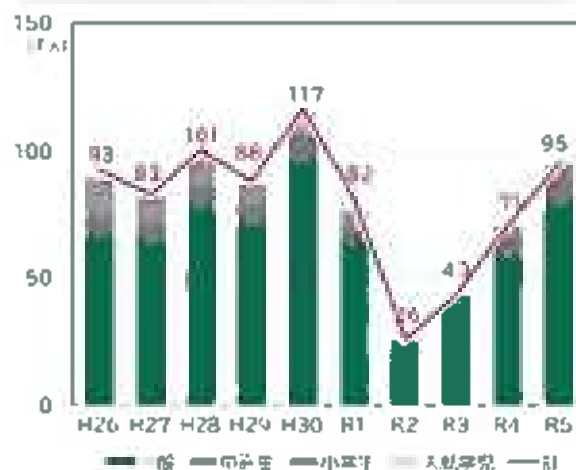
理念

漫画文化を次世代へ伝える漫画の博物館

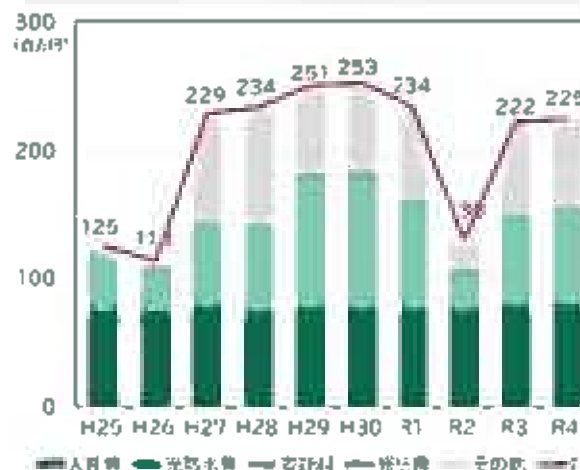
- 1 原画等の資料の収集・保存・研究
- 2 【見る】研究成果を活かした常設展示や自主企画展、集客に寄与する巡回展示
- 3 【読む】幅広い年代・ジャンル、7万冊の漫画本を読める読覧事業
- 4 【描く】ワークショップ・アウトリーチを通じた、人材育成、教育・普及事業

その他

入館者の推移



維持管理費の推移



- 漫画原画の散逸や海外への流出が課題となる中、収集・保存に取り組む施設は全国で4施設。今後、収蔵資料の利活用を強化していく。
- 文化庁「メディア芸術連携基盤等整備推進事業(マンガ原画アーカイブセンター)R2～」の基幹施設として参画。
- 入館者は年間8~10万人を推移し、近年は、海外を含む教育機関や近隣の福祉施設等の団体視察が増加している。

漫画ミュージアムの主な問題意識

	ソフト(展示・コンテンツ)	ハード(施設)	資源(予算・人員)・他
短期 A 年度内	<ul style="list-style-type: none"> ①アンケート調査は企画展のみで実施しているため、常設展に関するユーザーの満足度やニーズの把握が不十分 ②漫画メディアは、絵と文章を組み合わせさせて楽しむという特性を踏まえつつ、インバウンド顧客のニーズへの更なる対応が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ①禁止表示が多いため、ユーザーにとって、明るい雰囲気や気分を損なう懸念がある ②大量のチラシ・ポスターが未分類のまま随所に設置・掲示されているため、美観を損ない、ユーザーに対する情報提供も十分に機能していない 	
中期 B 3-5年	<ul style="list-style-type: none"> ①若年層やインバウンド層にリーチし、更なる来館を促すため、最新の市場動向やニーズに連動した企画・広報の強化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ①民間施設にテナントとして入居しているため、路上標識等のコントロールが難しく、分かりやすい来館経路の案内が難しい ②常設展のデジタル機器が耐用年数を超えているため、計画的な更新・リニューアルが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ①漫画分野の学芸員は、全国的に少なく、当館は正規職員が1名であるため、人事異動が難しい
長期 C 5-10年	<ul style="list-style-type: none"> ①漫画にフォーカスした施設であり、アニメやゲームなどへの展開が十分でないため、あるあるcityに立地していることを活かしたシナジー強化論が必要 ②電子メディアが主軸になる中、収集や展示・閲覧の方法も変化に対応した見直しが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ①あるあるcityは民間施設であるため、市による老朽化対策は不要であるが、館内設備については、市による計画的な老朽化対策が必要 ②今後も物故作家から原画寄託受け入れる必要があるが、収蔵庫の容量が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ①地元作家の原画を14万枚以上、寄託収蔵しているが、企画展準備などの業務の負担が高いため、現状の学芸員3名(正規1名・非正規2名)では整理が難しく、ユーザー満足度の更なる向上に向けた利活用が十分にできていない



概況

- 【短期】 ユーザーニーズの把握やユーザーがコンテンツを楽しむ環境整備が不十分
- 【中期】 若年層やインバウンド層の来館を促すための企画・広報力不足
- 【長期】 サブカルを中心とする民間施設に立地していることを活かした運営が必要

漫画ミュージアムと他都市類似館との比較

※ 入場者数・支出・収入→R4時点
 ※ 支出・収入は行政に帰属するものを計上
 ※ 職員数→R6.4.1時点(嘱員除く)

- 博物館機能、図書館機能、原画収集機能を併せ持ち、漫画を総合的に扱う施設は国内で4施設のみ
- 指定管理者制度導入済みの他都市類似館と比較した場合、入場者1人あたりの**行政の負担額は高い**(2.4千円)

施設名		北九州市 漫画ミュージアム	総合漫画関連施設A (東北市町村立)	総合漫画関連施設B (関東)	総合漫画関連施設C (近畿)
人口(R5.10.1)		914,620	約80,000	約約70,000	約2,500,000
運営主体		直営	指定管理	大学	大学+市
展示面積(m) (学芸員1人あたり)		1,420 (473)	3,363 (1,682)	60 (60)	860 (287)
収蔵品数(件) (学芸員1人あたり)		164,000 (54,666)	490,000 (245,000)	361,870 (361,870)	300,000 (100,000)
開架図書数(件) (学芸員1人あたり)		56,000 (1,867)	25,000 (12,500)	4,348 (4,348)	50,000 (16,667)
入場者数(人)[A]		71,325	94,078	非公表	187,273
(人) 職員数	事務職	6	26	2	5
	学芸員/司書	3/2	2/0	1/5	3 ※大学からの業務+2/2
支出(千円)[B]		224,994	114,665		
収入(千円)[C]		50,813	24,653	非公表	非公表
入場者1人あたりの 負担額[B-C]÷[A](千円)		2.4	1.0		
各機能	原画保存	◎	◎	△	○
	漫画(図書)	○	△	◎ ※利用できない	◎
	展示機能	◎	◎	○	◎
	体験機能	○	○	×	◎
	人材育成	○	△	△	○

※ 支出・収入は他都市比較用に整理しており、施設稼働等と数字が異なる場合がある

出所) R6北九州市聞き取り調査より

スペースLABO(北九州市科学館)の概要

- 国内最大の大型竜巻発生装置、科学の不思議を体験・体感できる展示や、国内最大級のドーム径30メートルのプラネタリウムなどを有する施設
- 小中学生以下の子どもを含む、ファミリー層の利用が多い



施設概要

項目	内容
設置目的	科学に関する展示をはじめ、教室・講座・企画展・イベントの実施等により、科学への興味関心を高め、科学技術の振興を担う技術系人材の育成を図るとともに、賑わいの創出を目的とする
所在地	八幡東区東田4丁目1-1
開館時間	10:00~18:00(年末年始除く) ※プラネタリウム夜間放映日あり
開設時期	令和4年

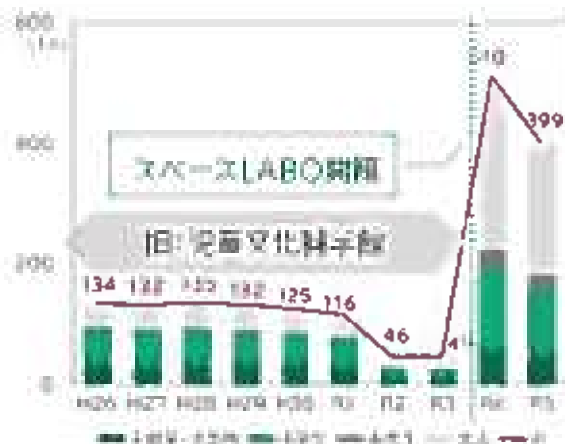
理念

一人一人が感じる「フシギ」の芽を大切に、その芽をさらに育てていく体験・体感型の科学館

その他

- プラネタリウム番組や企画展等のイベントなど、継続的に新たな魅力を提供
- 平日の集客増のため、市外の学校や旅行代理店への効果的なPR
- 市内の全小学4年生を対象とした天文学習など、教育普及事業のさらなる充実
- 地元企業・大学の協力による展示など、連携を継続

入館者の推移



維持管理費の推移



科学館の主な問題意識

	ソフト(展示・コンテンツ)	ハード(施設)	資源(予算・人員)・他
短期 A 年度内	①施設内の多言語表記等が不十分なため、インバウンド来館者が少なく、また、十分に楽しむことができない	①玄関付近に各種掲示物が多いため、来館者が知りたい重要な情報が目につきにくい ②入館料の支払い方法が現金のみのため、来館者が利用しづらい	
中期 B 3-5年	①来館者が飽きないように、AI技術やロボットなど、最先端の技術を活用した展示の導入が必要であるものの、予算の制約上、頻繁な展示更新が難しい	①館内に食事ができるスペースがなく、団体や家族連れ等に不便を生じており、修学旅行等の誘致の障害になっているため、商業施設や博物館と連携した対応を検討する必要がある	①デジタル技術を駆使した展示が多く、機器の更新(特にプロジェクターの交換)の予算確保に苦慮(最大で数千万円/年)しており、イベントや教育事業の経費が圧迫される
長期 C 5-10年		①本館と分館が離れて立地しているため、来館者が利用しづらく、運営面でも非効率	



概況

- 【短期】 多様なユーザーが楽しみ、理解を深めることができる展示の工夫が必要
- 【中期】 最先端技術の発展に対応して、早い周期で展示やコンテンツの更新が必要
- 【長期】 本館から離れて立地する分館の活用策やあり方の検討が必要

科学館と他都市類似館との比較

※ 入場者数・支出・収入…R4時点
 ※ 支出・収入は行政に帰属するものを計上
 ※ 職員数…R6.4.1時点(課長除く)

- 他都市類似館と比較して、入場者1人あたりの行政の負担額は低い(1.0千円)傾向にある

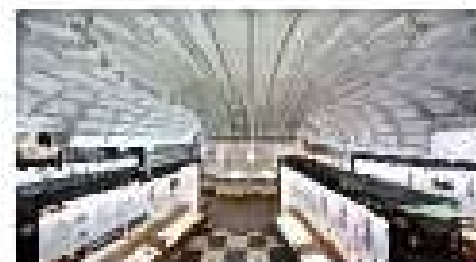
施設名	【北九州市】 科学館 (スペース LABO)	科学館A (関東政令市立)	科学館B (関東政令市立)	科学館C (近畿政令市立)	科学館D (中国政令市立)	科学館E (九州政令市立)	
人口(R5.10.1)	914,620	約1,300,000	約1,500,000	約1,500,000	約1,200,000	約1,600,000	
運営方法	直営	直営	学芸(学芸) 指定管理(施設)	指定管理	指定管理	指定管理	
展示面積(m ²) (学芸員1人あたり)	1,863 (932)	1,580 (-)	769 (256)	5,710 (-)	1,038 (104)	1,895 (1,895)	
入場者数(人)(A)	510,063	110,568	249,649	374,905	261,639	614,080	
職員数 (人)	事務職	21	18	8	48	4	56
	学芸員	2	0	3	0	10	1
支出(千円)(B)	650,056	289,812	174,463	457,876	201,565	520,731	
収入(千円)(C)	121,080	21,064	10,748	82,389	12,468	98,109	
入場者1人あたりの 負担額(B-C):(A)(千円)	1.0	2.4	2.4	1.0	0.7	0.7	

※ 支出・収入は他都市比較用に整理しており、施設運営等と数字が異なる場合がある

出所) R6北九州市聞き取り調査より 22

文学館の概要

- 年配の方を中心とした大人の利用が多い(高校生以下は14.8%)
- 年間2万人前後の入館者
- 常設展示のほか、おおむね年に2回、特別企画展を開催



施設概要

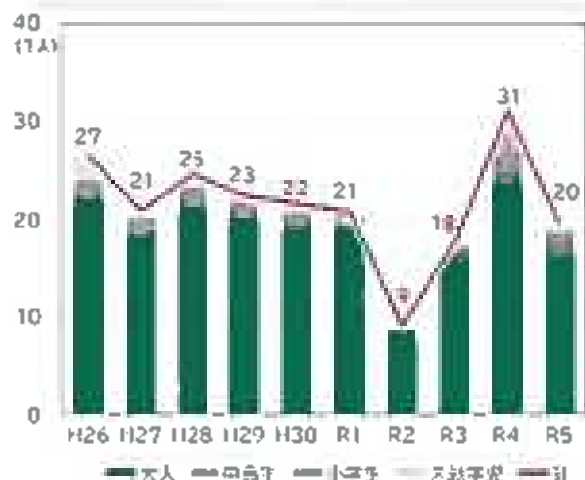
項目	内容
設置目的	北九州にゆかりのある文学者の作品の展示、業績の紹介等を行うとともに、市民の文芸活動を支援することにより、文化の向上に寄与する。豊かな文芸土壌を未来へ引き継ぐ。
所在地	小倉北区城内4-1
開館時間	9:30~18:00(月曜日は休館)
開設時期	平成18年

理念

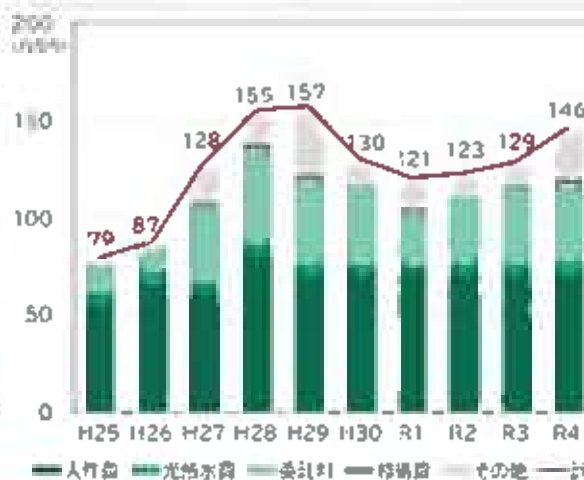
まちの記憶を刻み、まちの誇りを未来につなぐ文学館

- 1 文芸資料の収集保存、調査、研究
- 2 研究成果を企画展や講演会で発信
- 3 豊かな文芸土壌を未来へ引き継ぐ

入館者の推移



維持管理費の推移



その他

- 全国規模の3つの「文学賞」を実施(林美美子文学賞、子どもノンフィクション文学賞、詩のコンクール)
特に、林美美子文学賞は、新人作家の登竜門となっており、受賞者のその後の活躍も目覚ましく、芥川賞を2人が受賞している。

文学館の主な問題意識

	ソフト(展示・コンテンツ)	ハード(施設)	資源(予算・人員)・他
短期 A 年度内	①案内表示がユニバーサル対応になっていないため、多様な来館者のニーズや興味に十分な対応ができていない	①キャッシュレス対応が遅れており、来館者ニーズに対応するため、利用できる種類の増加に取り組む ②傘立てが老朽化しており、雨の日に来館する方が利用しづらい	
中期 B 3-5年	①企画展予算が減少しており、子どもたちが喜び、来たくなるような企画展・イベントの開催が少ない(年11,800千円程度) ②予算が不足しているため、資料の購入や調査研究、出張が困難(年2,000千円程度) ③特別企画展を開催していない期間の入館者が少なく、常設展のブラッシュアップなどが必要	①図書館も含め、周辺に飲食可能な大きな休憩スペースがないため、団体利用者が困っており、周辺施設と連携した対応の検討が必要 ②自動扉、エレベーター、シャッターが老朽化しており、設備のメンテナンスや改修が必要	
長期 C 5-10年		①築50年を超えているため、施設・設備が老朽化している ②今後も収蔵品が増えるため、収蔵庫の収容スペースが足りない	①来館者の探求ニーズに対応するため、研究機能の維持・向上が重要であり、長期的に学芸員の確保・育成が必要(現在3名)



概況

- 【短期】 多様なユーザーが楽しみ、理解を深めることができる展示の工夫が必要
- 【中期】 企画展だけに頼らない、常設展の魅力アップが必要
- 【長期】 施設の老朽化対策が必要

文学館と他都市類似館との比較

※ 入場者数・支出・収入…R4時点
 ※ 支出・収入は行政に帰属するものを計上
 ※ 職員数…R6.4.1時点(課長除く)

- 他都市類似館と比較して、職員数は少ない
- 他都市類似館と比較して、入場者一人あたりの行政の負担額はやや高い(3.8千円)

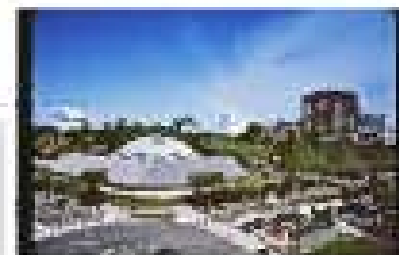
施設名	【北九州市】 文学館	文学館A (東北政令市立)	文学館B (九州庁市面立)	文学館C (中国市立)	文学館D (近畿市立)
人口(R5.10.1)	914,620	約1,100,000	約590,000	約460,000	約520,000
運営方法	直営	指定管理	指定管理	指定管理	直営
展示面積(m) (学芸員1人あたり)	640 (213)	956 (137)	1,392 (348)	610 (610)	1,092 (182)
収蔵品数(件) (学芸員1人あたり)	120,000 (40,000)	140,200 (20,029)	9,200 (2,300)	42,500 (42,500)	180,000 (30,000)
展示品数(件) (学芸員1人あたり)	300 (100)	150 (21)	483 (121)		300
入場者数(人)[A]	31,137	44,836	92,479	24,901	66,481
(人) 職員数	事務職	4	6	5	4
	学芸員	3	7	4	6
支出(千円)[B]	126,336	296,942	254,779	75,916	205,679
収入(千円)[C]	9,297	7,887	13,802	9,303	12,383
入場者1人あたりの 負担額[(B-C)÷(A)](千円)	3.8	6.4	2.6	2.7	2.9

※ 支出・収入は他都市比較用に整理しており、施設様態等と数字が異なる場合がある

出所) R6北九州市聞き取り調査より 25

松本清張記念館の概要

- 高齢者の利用が多く、若年層の利用が少ない
- 市外からの来館者が多い



施設概要

項目	内容
設置目的	社会派推理小説をはじめ、歴史小説、古代史、現代史など様々なジャンルにわたって創作活動を続けた北九州市出身の作家・松本清張の偉大な業績を称え、後世に継承していくことを目的とし、遺族の全面的な協力を得て建設。
所在地	北九州市小倉北区城内2番3号
開館時間	9:30~18:00
開設時期	平成10年

理念

- 1 松本清張の人と作品を紹介
- 2 清張とその時代の研究
- 3 あらゆる清張情報の発信
- 4 市民の文芸活動の支援
- 5 文化・観光ゾーンの形成

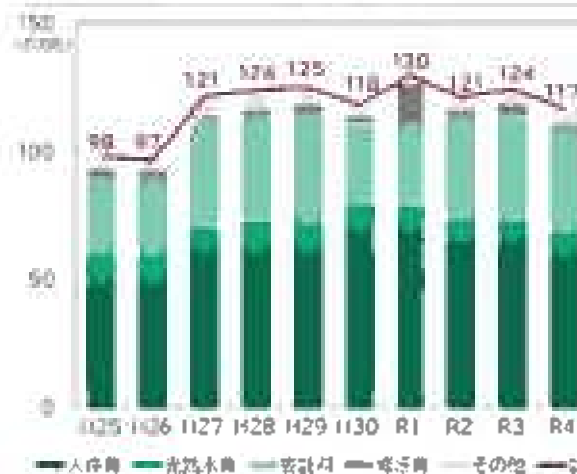
R5入館者居住地の割合



入館者の推移



維持管理費の推移



その他

- 研究という目的を踏まえ、年1回研究誌を発行し、著名な研究者や作家に執筆いただいている。また、研究者への奨励金授与、研究会の開催等も実施している。
- 清張ファンの高齢化のため、今後ますます入館者数の減少が想定される。若者や市民の来館者を増やすことが目標。

長崎街道木屋瀬宿記念館の概要



- 史料・町並みの保存や伝統文化の継承のため、行政と地元8団体で構成する運営協議会が協働で運営している中核施設

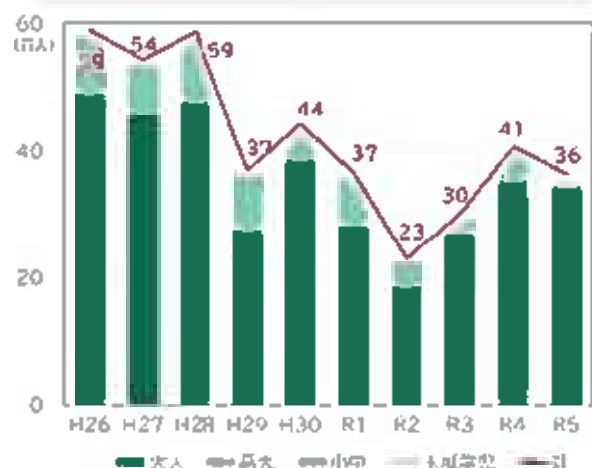
長崎街道木屋瀬宿記念館の概要

項目	内容
設置目的	長崎街道の宿場町であった木屋瀬地区に史料、街並みの保存や伝統文化の継承のため、行政と地元が協働で運営していく中核施設として平成13年1月1日にオープンした。
所在地	八幡西区木屋瀬三丁目16番26号
開館時間	9:00～17:30(入館は17:00まで)
休館日	月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始

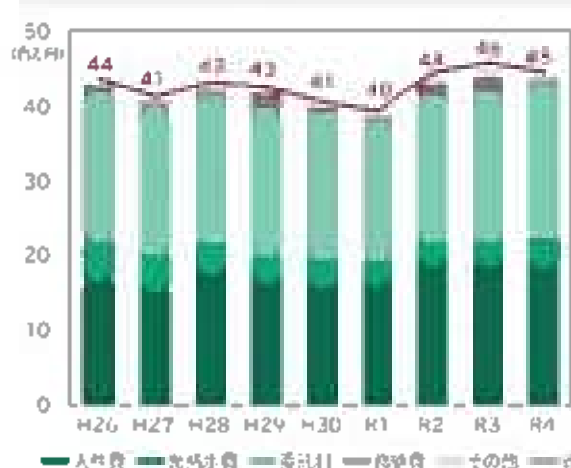
施設の概要

- **みちの郷土史料館**
常設展示は江戸時代を中心とした資料、郷土の歴史に関する図書、四季折々の祭り等のビデオを閲覧できる「映像ライブラリー」、自分で触れて音と映像で楽しく学習できる設備がある
- **こやのせ座**
大正時代に木屋瀬にあった芝居小屋「大正座」をモチーフにしており、地元につながる「木屋瀬劇場踊り」の伝承をはじめ、地域文化の振興のためイベント開催、貸しホールとして活用されている

入館者の推移



維持管理費の推移



その他

- 年4回の「企画展」は、木屋瀬の歴史・文化等の一分野を取り上げて開催している
- 地元組織8団体で構成される「市立長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会」と協働で地域文化の振興・伝承を行っている

松本清張記念館・長崎街道木屋瀬宿記念館の主な問題意識

	ソフト(展示・コンテンツ)	ハード(施設)	資源(予算・人員)・他
短期 A 年度内	<p>【松本清張記念館】</p> <p>①著作権等の関係で、撮影スポットがなく、展示の魅力を十分に楽しむことができない</p> <p>②音声ガイドが無く、来館者に分かりやすい環境整備が十分でない</p> <p>③アンケート調査による市民ニーズの把握が十分でない</p>	<p>【松本清張記念館】</p> <p>①キャンセル対応が遅れており、来館者ニーズに対応するため、利用できる種類の増加に取り組む</p> <p>【長崎街道木屋瀬宿記念館】</p> <p>①駐車場への案内が分かりづらく、また、看板が老朽化しているため、美観を損ねている</p>	
中期 B 3-5年	<p>【共通】</p> <p>①新規・リピーター確保に向けた常設展の更新ができていない</p> <p>【松本清張記念館】</p> <p>①地元舞台作品の紹介コーナーがないなど、本市出身であることのアピールが十分でない</p>	<p>【松本清張記念館】</p> <p>①展示施設やエレベータ、空調設備の改修や照度の改善等が必要</p> <p>【長崎街道木屋瀬宿記念館】</p> <p>①こやのせ座舞台装置が老朽化している、また故障した場合代替部品の交換が難しい</p>	<p>【松本清張記念館】</p> <p>①清張を知る、若者や子どもの減少やファンの高齢化によって、入館者数や友の会会員の減少が危惧される</p>
長期 C 5-10年		<p>【共通】</p> <p>①築30年近く経過し、施設が老朽化している</p> <p>【長崎街道木屋瀬宿記念館】</p> <p>①地元ボランティアの協力で、諸事業費を低く抑えている(1,200千円)が、高齢化により対応が困難となってきている</p>	<p>【共通】</p> <p>①来館者の探求ニーズに対応するため、研究機能の維持・向上が重要であり、長期的に学芸員の確保・育成が必要</p>



概況

【短期】 ユーザー体験の向上につながる工夫が不十分
 【中期】 ニーズを踏まえた魅力的なコンテンツを十分に提供できていない
 【長期】 施設の老朽化対策が必要

松本清張記念館と他都市類似館との比較

※ 入場者数・支出・収入…R4時点
 ※ 支出・収入は行政に帰属するものを計上
 ※ 職員数…R6.4.1時点(課長除く)

- 他都市類似館と比較して、入場者一人あたりの行政の負担額は低い(3.8千円)

施設名	【北九州市】 松本清張記念館	記念館A (東北市立)	記念館B (九州県庁所在地市立)	記念館C (関東政令市立)
人口(R5.10.1)	914,620	約120,000	約400,000	約3,800,000
運営方法	直営	直営	直営	指定管理
展示面積(m ²) (学芸員1人あたり)	1,028.2 (514.1)	217.91 (108.96)	266.2 (133.1)	未回答
収蔵品数(件) (学芸員1人あたり)	39,611 (19,805)	3,800 (1,900)	約30,000 (15,000)	未回答
展示品(件) (学芸員1人あたり)	162 (81)	850 (425)	約200 (100)	未回答
入場者数(人)[A]	27,396	12,294	12,835	15,656
(人) 職員数	事務職	5	7	4
	学芸員	2	2	3
支出(千円)[B]	114,991	82,080	58,601	60,504
収入(千円)[C]	10,232	5,290	6,359	—
入場者1人あたりの 負担額(千円)=[B]/[A]	3.8	6.2	4.1	3.9

※ 支出・収入は他都市比較用に整理しており、施設規模等と数字が異なる場合がある

出所) R6北九州市聞き取り調査より 29

長崎街道木屋瀬宿記念館と他都市類似館との比較

※ 入場者数・支出・収入…R4時点
 ※ 支出・収入は行政に帰属するものを計上
 ※ 職員数…R6.4.1時点(部長除く)

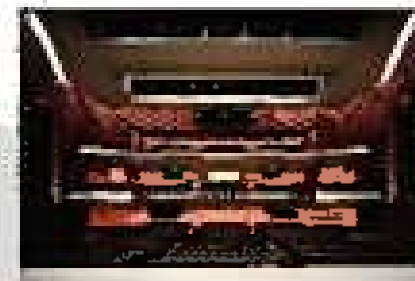
- 他都市類似館と比較して、入場者一人あたりの行政の負担額は低い(1.4千円)

施設名	【北九州市】 長崎街道木屋 瀬宿記念館	街道沿歴史 資料館A (東海市立)	街道沿歴史 資料館B (関東政令市立)	街道沿歴史 資料館C (関東市立)	街道沿歴史 資料館D (九州市立)	街道沿歴史 資料館E (近畿市立)	
人口(R5.10.1)	914,620	約75,000	約1,500,000	約22,000	約120,000	約140,000	
運営方法	直営	直営	指定管理	直営	直営	直営	
展示面積(m ²) (学芸員1人あたり)	950 (950)	229 (-)	238 (-)	367 (367)	965 (482)	137 (45)	
収蔵品数(件) (学芸員1人あたり)	2,670 (2,670)	9,622 (-)	59 (-)	-	15,000以上 (7,500以上)	約35,000 (約11,667)	
入場者数(人)	30,493	15,392	48,877	2,034	7,102	10,552	
(人) 職員数	事務職	3	4	0	1	2	3
	学芸員	1	0	0	1	2	3
運営費(千円)[B]	46,206	36,864	42,338	14,628	47,532	63,939	
収入(千円)[C]	1,552	662	-	188	853	11,049	
入場者1人あたりの 負担額(B-C)÷[A](千円)	1.4	2.3	0.8	7.1	6.5	5.0	

※ 支出・収入は他都市比較用に整理しており、施設規模等と数字が異なる場合がある

出所) R6北九州市聞き取り調査より 30

北九州芸術劇場の概要【中核施設】



- 稼働率は、新型コロナの影響を受けた令和2年度以降徐々に回復しており、利用者満足度も目標を達成している
- 市民会館としての側面を持つため、市民利用に配慮しており、民間のロングラン公演の誘致が難しい状況

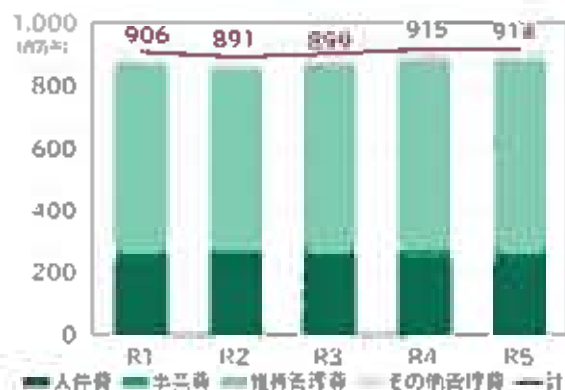
施設概要

項目	内容
名称	北九州芸術劇場
所在地	北九州市小倉北区三軒一丁目1番1号
延床面積	17,740㎡
席数	大ホール 1,269席、中劇場700席、小劇場216席
開館時間	10:00~22:00(年末年始を除く)
指定管理者	北九州市芸術文化振興財団(条件付公募)

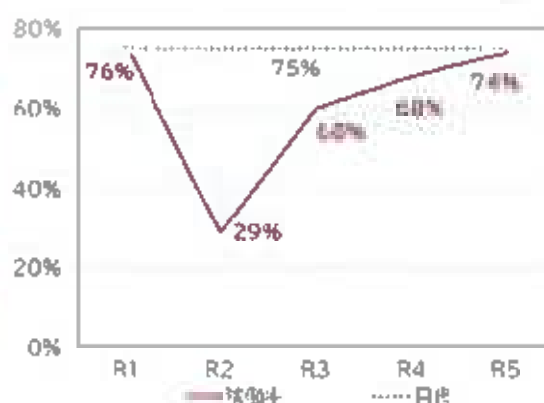
設置目的

「演劇」を主とした舞台芸術の制作・公演や舞台芸術を担う人材の育成等を行うとともに、市民自らが演劇、音楽等の活動をする場を提供することにより、優れた芸術文化を市民が享受する企画の拡大及び新たな芸術文化の創造に資する

指定管理料の推移



稼働率の推移



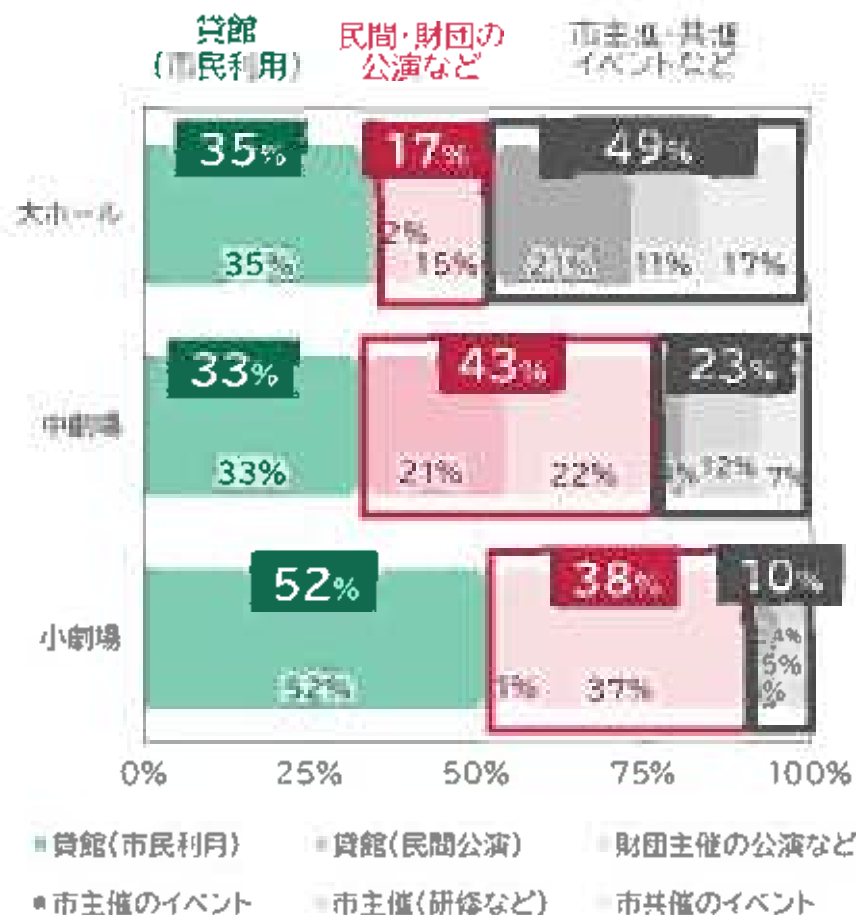
その他

- 「創る」「育つ」「観る」「支える」のコンセプトに基づき、オリジナル作品の創作や良質な作品の鑑賞機会等を提供
- 稼働率の向上や魅力ある自主事業の充実等を目指す

ホール系中核施設の利用実態について【北九州芸術劇場】

- 大ホールでは、市関連イベントや市民利用が多いため、民間公演が少ない
- 今後は中核施設として、集客力ある民間公演を誘致しやすい環境整備や誘致活動の強化が必要

北九州芸術劇場の年間利用状況



北九州芸術劇場の予約ルール

大ホール

- 予約日程が重複した際は抽選で予約枠を決定
- 市長が特に必要と認める「市主催事業」は、予約期間外に事前予約を行うことがある(年間数件程度)
- 市民利用への配慮から、市・財団主催事業の土日祝利用を制限するなど、運用ルールあり

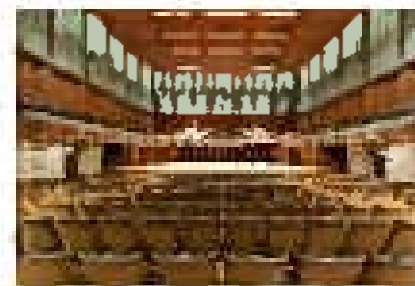
小・中劇場

- 北九州市芸術文化施設管理要綱に基づき、使用許可の優先順位を設けている。

《優先順位の例》

- 高い
- ・市又は指定管理者が主催する演劇、舞台芸術事業
 - ・民間等の長期演劇、舞台芸術事業
 - ・市及び指定管理者共催の演劇事業
 - ・
 - ・
- 低い
- ・その他の事業(講演会等)

北九州市立響ホールの概要【中核施設】



- 音楽ホールとして独自性ある取組を行っており、「北九州国際音楽祭」では、海外のアーティストやオーケストラによる公演や子ども向けコンサートを実施
- 稼働率は、新型コロナの影響を受けた令和2年度以降徐々に回復し、R5年度は利用者満足度ともに目標を達成

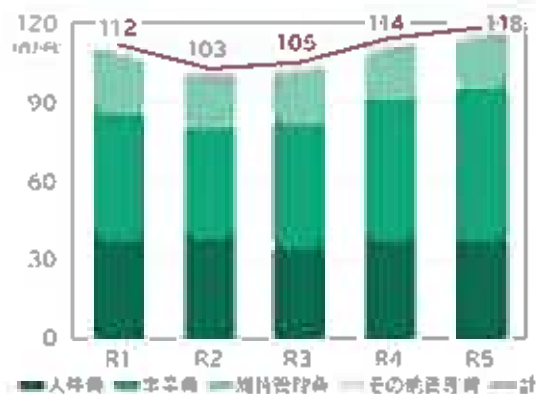
施設概要

項目	内容
名称	北九州市立響ホール
所在地	北九州市八幡東区平野一丁目1番1号
延床面積	3,589.42㎡
席数	ホール 720席
開館時間	9:00～22:00(年末年始を除く)
指定管理者	北九州市芸術文化振興財団(条件付公募)

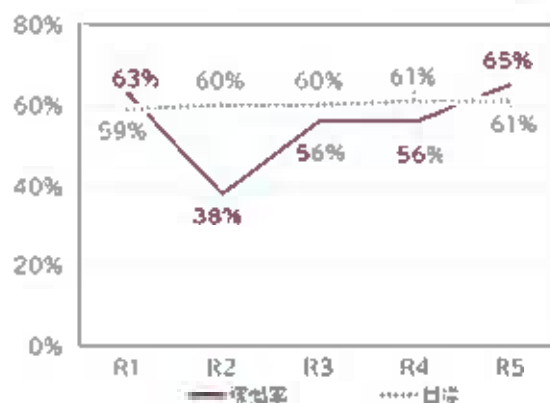
設置目的

「音楽」を主とした公演や音楽を担う人材の育成等を行うとともに、市民自らが音楽等の活動をする場を提供することにより、優れた芸術文化を市民が享受する機会の拡大及び新たな芸術文化の創造に資する

指定管理料の推移



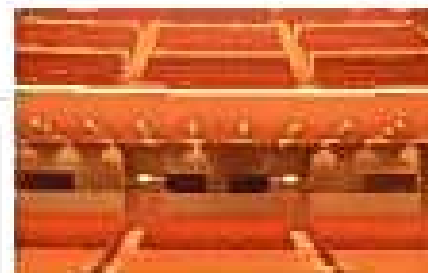
稼働率の推移



その他

- 「創る」「育つ」「聴く」「支える」「つながる」のコンセプトに基づき、優れた音楽に触れる機会を提供
- 文化庁補助金事業に5年連続採択されており、チケット収入等も目標を達成
- 令和8年度大規模改修予定

北九州ソレイユホールの概要【中核施設】



- 2000席を超える客席と九州最大級のパイプオルガンを備える
- 利用者数及び稼働率は、新型コロナウイルスの影響を受けた令和2年度以降徐々に回復しているが、R元年度の水準には届かず
- 築40年が経過し、老朽化が課題

施設概要

項目	内容
名称	北九州ソレイユホール
所在地	北九州市小倉北区大手町12番3号
延床面積	9,612㎡(ホテル棟含む:24,796㎡)
席数	ホール 2,008席
開館時間	9:00-22:00(年末年始を除く)
運営方法等	民間事業者の独立採算制(市負担なし)

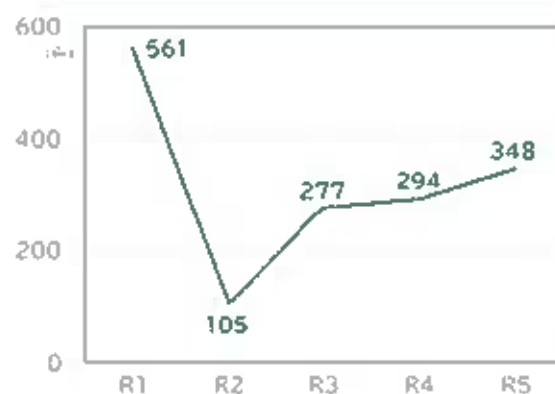
設置目的

各種コンサートやオペラ、バレエ、講演会等、多種多様な催し物や大規模公演の開催、国内・海外のトップアーティストの誘致等、多目的ホールとして優れた舞台芸術や多彩な公演を実施し、鑑賞機会の充実や文化活動の支援、地域活性化に寄与する

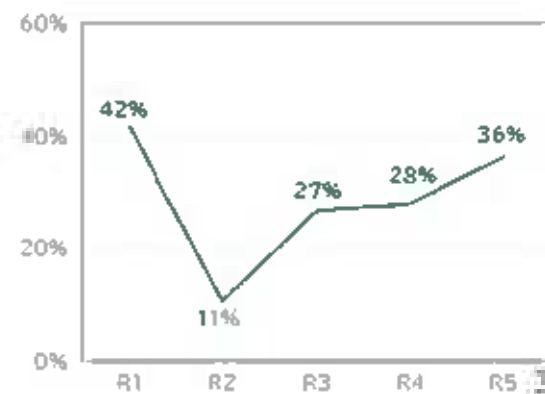
入場者数の推移



利用件数の推移



稼働率の推移



市民会館の概要【市民利用施設】

- 音楽や演劇、講演会など多目的な用途で利用
- 稼働率は、新型コロナの影響を受けた令和2年度以降、回復傾向にある



施設概要

項目	内容		
エリア	門司	若松	戸畑
所在地	老松町3-2	本町3-13-1	汐井町1-6
席数	800	800	800
来館者数(R5)	10,984	36,203	91,166
指定管理者(公募)	共同企業体グループA2K		(社)北九州市社会福祉協議会

設置目的

演劇、音楽、その他の利用に供することにより、市民文化の向上に資する

指定管理料の推移



稼働率の推移



その他

- 文化公演や地域活動の場として利用
- 座席数は800席で、区レベルの市民に身近な文化施設の位置づけ
- 若松市民会館、戸畑市民会館は複合公共施設となっており、施設全体の集客や利便性に寄与

ホール系施設・ソフト事業の主な問題意識

	ホール系(中核施設)	ホール系(市民利用施設)	ソフト事業
短期 A 年度内	<p>【北九州芸術劇場・響ホール】</p> <p>①施設までの道順や駐車場から会場までのアクセスがわかりにくい</p> <p>【ソレイユホール】</p> <p>②玄関掲示板に様々なポスター・チラシが張られているため、美観を損なっている</p>	<p>【若松市民会館】</p> <p>①練習室に、着替えや休憩のためのハンガーラックや机がないため、ユーザーニーズを踏まえた対応が必要</p>	<p>①事務事業の効率化に向けて、市民文化表彰のあり方の見直し、他の表彰との統合などを検討する必要がある</p>
中期 B 3-5年	<p>【北九州芸術劇場・響ホール】</p> <p>①バリアフリー化が十分でないため、車椅子の方などが利用しにくい</p> <p>【北九州芸術劇場】</p> <p>②授乳やおむつ替え専用スペース、子ども用飲食の自販機設置等がなく、ファミリー層向け設備が不十分</p> <p>③公演事業の拡充に向けた予約ルールの改善</p> <p>【響ホール】</p> <p>④トイレが少ないため、公演の休憩時間に長蛇の列ができる</p>	<p>【黒崎ひびしんホール】</p> <p>①PFI事業期間が令和9年6月までとなっているため、その後の管理運営のあり方や施設の老朽化を踏まえた改修計画等の策定など、PFI事業終了後の課題を整理し、対応策の検討が必要</p>	<p>①北九州市芸術文化振興財団のプロパー職員は埋蔵文化財の学芸員のみであるため、組織の経営課題を長期的視点で検討する人材の確保が必要</p> <p>②北九州市芸術文化振興財団の市の財政的関与の改善(88%)</p> <p>③文化芸術の担い手が高齢化しているため、若年層の興味を喚起し担い手の育成が必要</p>
長期 C 5-10年	<p>【北九州芸術劇場・響ホール・ソレイユホール】</p> <p>①施設の老朽化対策が必要</p>	<p>【戸畑市民会館】</p> <p>①現在築20年であることから、今後の老朽化を見据えた大規模改修計画が必要</p>	<p>①市の補助金への依存度が高い事業の収支構造改善</p> <p>②全庁的な補助事業の重複整理</p>



概況

【短期】 ユーザー目線での施設運営が不十分
 【中期】 市の文化芸術事業の担い手である、財団の組織人員体制強化が必要
 【長期】 施設の老朽化対策が必要

ホール系中核施設と他都市類似館との比較

※ 入場者数・支出・収入…R4時点
 ※ 支出・収入は行政に帰属するものを計上
 ※ 職員数…R6.4.1時点

- 福岡市及び同規模政令市における、全市的な芸術文化施設を比較すると、北九州市は**入居施設の管理費が高額なことや市主催事業等の減免が多いため、利用者一人当たりの運営費は高い**

施設名	北九州芸術劇場	中核ホールA (九州政令市)	中核ホールB (近畿政令市)	中核ホールC (東海政令市)
推計人口 [R5.10.1時点]	914,620人	約1,600,000人	約810,000人	約680,000人
施設内容	大ホール1,269席、 中劇場700席、 小劇場216席	大ホール1,770席、 小ホール354席	大ホール2,000席、 小ホール312席	大ホール1,698席 中ホール1,170席
運営団体	(公財)北九州市芸術文化 振興財団	民間	外郭団体	外郭団体+民間
運営形態	指定管理制度/ 非利用料金制	指定管理制度/ 非利用料金制	指定管理制度/ 利用料金制	指定管理制度/ 利用料金制
①維持管理コスト (固定管理料-収入額)	902,449千円 うち入居後管理費451,291千円	133,296千円	529,871千円	279,831千円
②利用者数	182,048人	164,798人 (大ホール)	281,084人 (隣接する公園含む)	388,974人
利用者1人あたり の運営費[①/②]	5.0千円/人 入居施設管理料除く2.5千円	0.8千円/人	1.9千円/人	0.7千円/人
稼働率 ※1コマ	68.2%(大ホール)	76.1%(大ホール)	74.3%	62.1%
職員数 (うちプロ・マネ)	49人(うち0人)	29人(うち29人)	28人(うち25人)	30人(うち30人)
減免率	60%	1%	0	0

※ 支出・収入は他都市と比較用に整理しており、施設規模等と数字が異なる場合がある

ユーザー目線での改善が必要な事例

- 文化関連施設では、ユーザー目線での改善が必要な部分が多い

自然史・歴史博物館

事務用品などが
見えているカウンター



案内が小さく読みづらい



AEDのシールがはがれている



美術館

市民展示の案内板が
美術館本体部分にある



施設の一等地に
立ってがある



禁止事項が多い(7つ)



漫画ミュージアム

乱立するポスター・チラシが
美観を損ねている



禁止事項が多く
雰囲気損ねる



科学館

案内の文字が小さく
読みづらい



了どし向け案内が
高い位置にある



北九州芸術劇場

施設と無関係のチラシ設置



雑然とした印象を与える展示



施設の運営改善に向けた取組

- まずは、**ユーザー目線による施設改善**に取り組むため、**ワーキングチームを設置し**、スピード感を持って、ユーザーニーズ把握方法の見直しや具体的改善に着手

STEP1

設置済

- **ワーキングチームの設置**

- ・事務職員
- ・学芸員
- ・委託業者(交流員)

など、幅広くメンバーを選定



自然史・歴史博物館(7人)、美術館(7人)、
科学館(7人)、漫画ミュージアム(5人)、
文学館・松本清張記念館【共同】(4人)

STEP2

着手済

①館内施設の改善実施

- ・館内表示の改善
- ・ホスピタリティの改善
- ・ユーザーニーズへの対応

➤ 各館で順次、改善中

②ユーザーニーズ把握方法の改善

- ・利用者アンケートの改善
- ・ヒアリング調査の実施
- ・その他意見聴取方法の検討

➤ 漫画ミュージアムで先行実施

STEP3

着手済

- **施設間の情報共有と更なる改善検討**

- ・各館担当課長会議
- ・学芸員交流会(仮)



- ・各館担当課長会議第1回開催済
- ・学芸員交流会秋頃開催予定

ユーザー目線を踏まえた改善(1/2)

- 文化関連施設には、美観を損ねる掲示や事務用品がある、分かりづらい案内表示があるなど、**ユーザー目線が不足している部分があるため、既に一部改善に取り組んだ**

before

自然史・歴史
博物館

来館者への寄り添いが不十分な看板



皆様のご協力を
お願いいたします

美術館

エントランスホールにあちらこちらに
イーゼルを設置し景観を損ねている



after

ご案内の表現方法を改善



期間までごゆっくり
ご覧ください

イーゼルを撤去し、
ホールの景観を向上させた



| ユーザー目線を踏まえた改善(2/2)

- 文化関連施設には、美観を損ねる掲示や事務用品がある、分かりづらい案内表示があるなど、**ユーザー目線が不足している部分があるため、既に一部改善に取り組んだ**

before

- 玄関掲示板に様々なポスター・チラシが張られている
- 傘立てが一番目立つ場所を独占
- 音響配線が一部むき出し
- 漫画閲覧ゾーンでの寝ころび禁止

after

- **性質別、重要度などを勘案し掲示するなど、美観に配慮**
- **傘立てを目立たない場所に移動**
- **来館者から見えない位置に配線を移動**
- **寝ころび禁止を解除し、表示を削除**



文化振興施策に関する変革のSTEP

- 文化振興施策の持続可能性を高め、「彩りあるまち」を実現するために、まずは、現場が抱える課題や利用者の声を把握し、問題意識を整理した上で、ユーザー目線の変革に取り組んでいく

STEP1

問題意識を整理する

今回

STEP2

現状を把握し分析する

STEP3

解決すべき課題を特定する

STEP4

課題解決の方向性を決定する

スケジュール
検討の体制 など

STEP5

課題解決に向けて具体的に取組を実行する

ユーザー目線を踏まえた
文化振興施策の変革

参考資料

⑤ 「STEP2・3」向けの準備中資料

STEP1	問題意識を整理する
STEP2	現状を把握し分析する
STEP3	解決すべき課題を特定する
STEP4	課題解決の方向性を決定する <small>スケジュール 検討の体制 など</small>
STEP5	課題解決に向けて具体的に取組を実行する

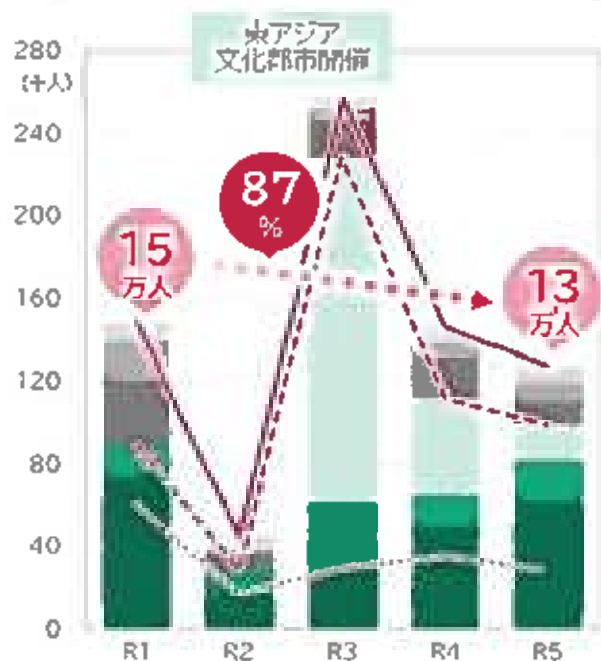
ユーザー目線を踏まえた
文化振興施策の変革

文化振興施策関連事業における利用者数の推移

appendix

- 文化芸術事業の参加者数や博物館系施設の利用者数は、コロナ前の概ね90%程度まで回復している
- ホール系施設の利用者数は、コロナ前の概ね80%程度まで回復している

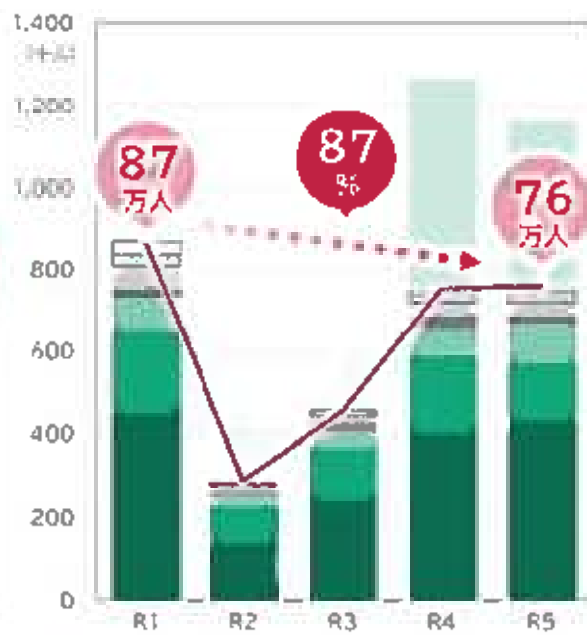
文化芸術事業



- 北九州国際音楽祭
- 北九州芸術劇場
- 特定分野団体
- 北九州市芸術文化振興財団
- 合計
- 宮ホール
- 市民活動支援等
- 全教団
- 各種文化芸術関連団体等

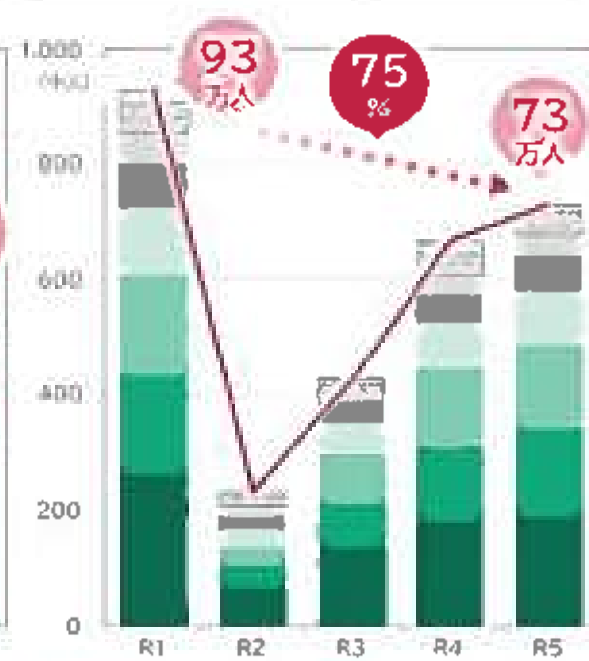
出所)各事業記録

博物館系



- 科学館
- 長崎市造幣記念館
- 文学館
- 美術館
- 合計(科学館除く)
- こども文化会館
- 松本清張記念館
- 漫画ミュージアム
- 自然史・歴史博物館

ホール系



- 北九州芸術劇場
- ソレイユホール
- 大手町劇場
- 宮ホール
- 旧百三銀行ビル
- 福岡びびりんホール
- 戸畑市民会館
- 若松市民会館
- 門司市民会館
- 合計

出所)北九州市公共施設白書

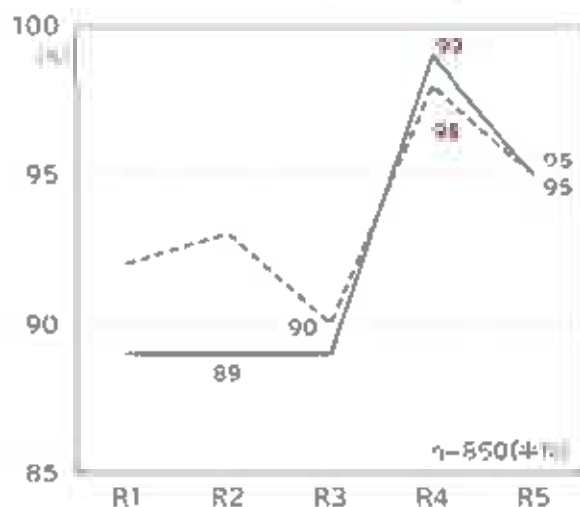
文化振興施策関連事業における利用者の満足度

- アンケートの結果、文化振興施策の事業や施設の
利用者のうち概ね90%以上が「満足」と回答しており、高い水準を維持している

文化芸術事業

北九州国際音楽祭のアンケート結果では、概ね90%以上が「よかった」と回答しており、再訪希望も過去5年間、常に90%を上回るなど、来場者の満足度が高い運営が続いている

北九州国際音楽祭アンケート結果

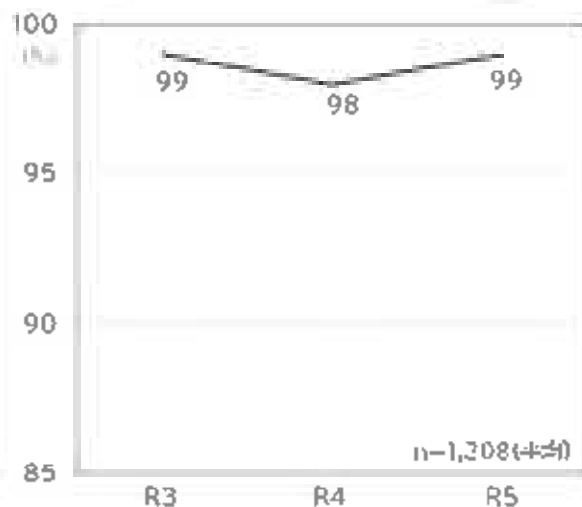


— よかった - - - また来てみたい

博物館系

自然史・歴史博物館のアンケート結果では、98%以上が満足と回答しており、利用者にとって魅力ある企画や展示ができている

自然史・歴史博物館利用者アンケート結果

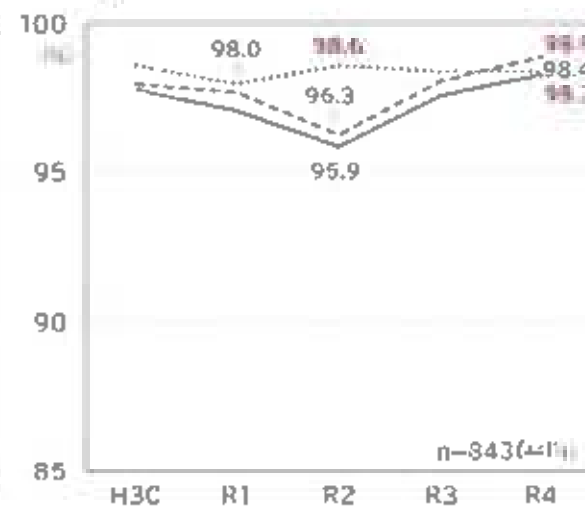


— 博物館利用者満足度

ホール系

北九州芸術劇場の観客調査の結果、「総合的満足度」や「劇場係員の対応」、「公演内容の満足度」は、過去5年間、常に95%を上回るなど、利用者の満足度が高い運営が続いている

北九州芸術劇場の観客調査結果



— 総合的満足度 - - - 劇場係員の対応 公演内容

文化振興施策関連事業における利用者の声

- アンケート自由記述欄には、利用者が不満を感じる点が触れられているため、理由を深掘りするなど、**更なる運営改善に向けて、利用者ニーズ把握や活用方法の見直しが必要**

	文化芸術事業	博物館系	ホール系
対象	北九州国際音楽祭	自然史・歴史博物館	北九州芸術劇場
ポジティブ	<ul style="list-style-type: none"> ・奏者の後姿に全身を使っの音作りを感じた。 ・子どもからお年寄りまでリズムを感じる喜びをシェアできる贅沢な空間でした。 ・普段なかなか聴けない演奏家の演奏を聴けて毎回楽しみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な物が知れてワクワクする。雰囲気も好き。 ・命のつながりが分かりやすく展示されていた。 ・子どもの勉強になるため、教育に最適。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生でしか味わえないものを身体中で体感でき感動した。 ・役者との距離が近く臨場感があった。 ・市民参加(演者)の皆さんが楽しそうで、元気を貰った。演劇の裾野を広げる良い企画。
ネガティブ	<ul style="list-style-type: none"> ・初心者に分り易いよう、内容の説明をしてほしかった ・コンサートはポスター等の前で記念撮影をする人が多いが、そういう場所がなかった ・デジタル時計を切っしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し展示品変えて欲しい。(何回か来ているので) ・展示物は良いですが、施設面に不安があります。 ・子供は喜んでいましたが、館内施設に不満。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の導線が分かりにくい。 ・大・中・小同時講演のようで通路が混雑していた。 ・トイレの数が少ない。トイレのドアの上に空き状況を目視出来ると良いな。と思った。



今後の
方向性

- ① おもてなしの視点で運営改善が必要
- ② 施設面の不満に関する理由の深掘りが必要

主なホール系施設の減免の取り扱いについて

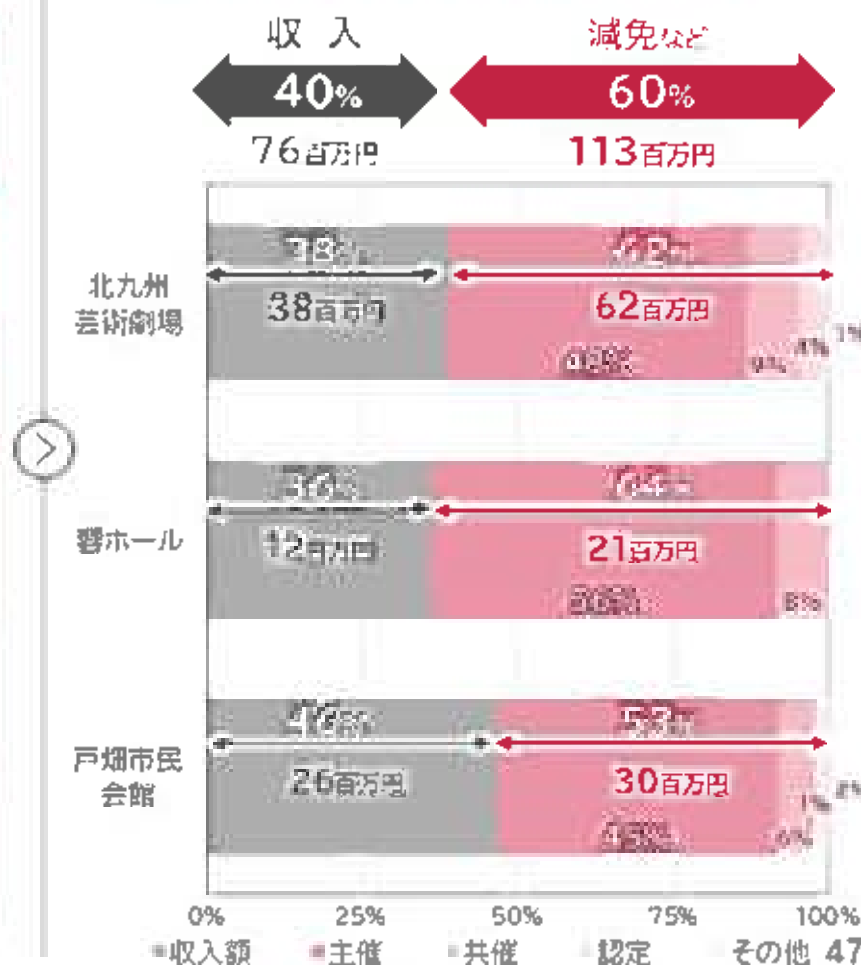
- 各使用料の減免の割合は、区分に応じて5割～10割を適用している
- 市の主催や減免の対象となる施設利用が多く、**施設使用料の60%が収入になっていない**

芸術文化施設に係る使用料減免のルール(抜粋)

区分	減免の種類と割合		
	施設 使用料	器具 使用料	設備 使用料
市又は教育委員会の 主催	収入なし		
市又は教育委員会との 共催	10割	5割	5割
認定団体 ※のうち音楽・演 劇団体が練習のため空き 時間に使用するとき	7割 5分	—	—
認定団体 がその目的のた めに使用するとき	5割	5割	5割
市民文化の向上のために 使用する場合で、市長が 特 に必要があると認める とき	5割	5割	5割

※教育委員会が認定した社会教育関係約70団体

使用料収入と減免の実績(R5年度)



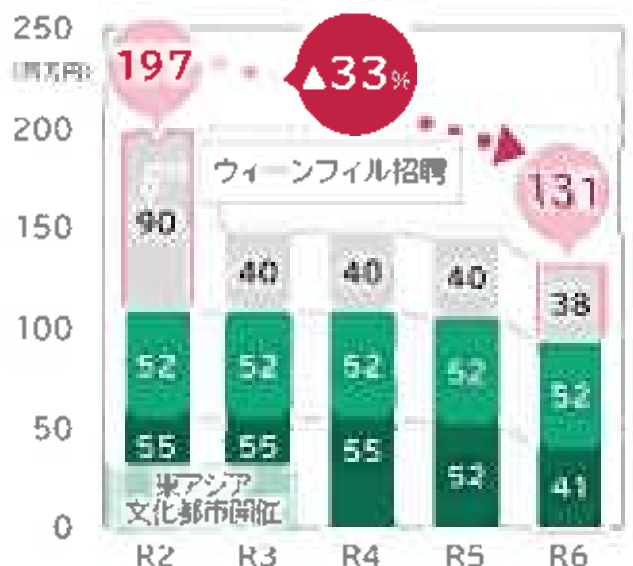
文化振興に関する補助事業予算の推移(ソフト)

- 多様な文化芸術事業を振興するために、文化芸術の担い手である北九州市芸術文化振興財団や各種文化芸術団体へ事業費の補助を行っているが、予算は減少傾向にある
- 補助事業の多くは自己負担やチケット収入等を財源(86%)に実施されており、補助金の割合は低い

北九州市芸術文化振興財団

当財団が管理する施設を核として、オリジナル演劇作品やコンサートを制作し、公演を実施するとともに、質の高い文化芸術に触れる機会の提供や担い手の育成等に取組んでいる

財団への補助事業予算の推移

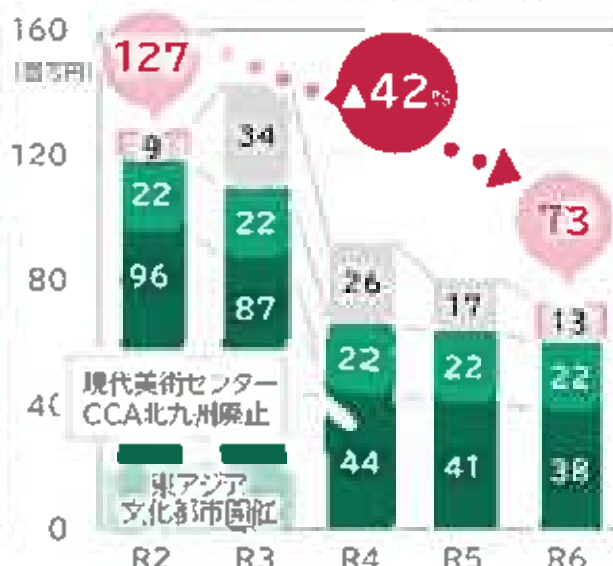


■北九州芸術劇場 ■響ホール ■北九州国際音楽祭

各種文化芸術関連団体等

北九州文化連盟が実施する市の芸術祭や、市民オーケストラが実施する演奏会、市民が主体となった文化芸術活動に関する事業費の一部を補助し、地域の文化芸術振興に取り組んでいる

団体等への補助事業予算の推移

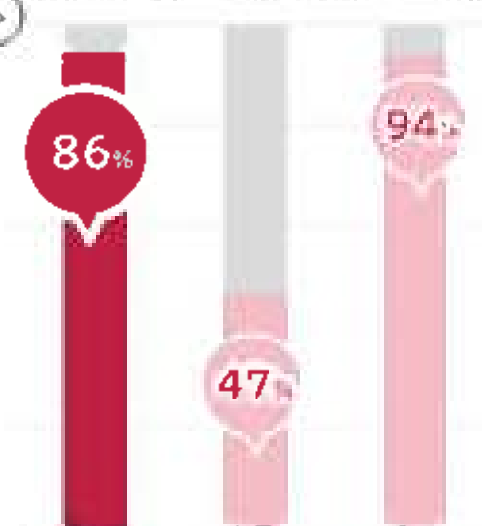


■東アジア文化都市国債 ■現代美術センター CCA北九州廃止 ■特定分野団体 ■全般団体 ■市民活動支援等

自己負担等の割合

各種文化振興に関するソフト事業については、86%を自己負担やチケット収入等で賄っており、補助金の割合は低い

補助事業の自己負担等の割合(R5)



補助事業合計 北九州市芸術文化振興財団 各種文化芸術関連団体
■自己負担等 ■補助金

北九州市芸術文化振興財団の概要(ソフト)

appendix

- (公財)北九州市芸術文化振興財団では、北九州市の**文化芸術の担い手**として、中核施設の管理運営を行い、各種公演事業等を実施している

ミッション

市民の芸術文化の振興に関する事業や埋蔵文化財の調査、研究及び保護等を行い、市民生活の向上と市民の豊かな芸術文化の創造に寄与する

中期目標

- ①市民の多様な文化芸術ニーズに対応し、様々な公演事業や育成事業の実施及び幅広い層への情報発信を行い、地域文化の振興に寄与していく。
- ②文化芸術施設の管理運営、並びに文化財保護法に基づいた埋蔵文化財の発掘調査、研究、保存等を行なう。

団体概要

項目	内容
沿革	昭和51年 財北九州市教育文化事業団設立 平成13年 財北九州市芸術文化振興財団に名称変更
職員	76人(うちプロパー職員3人、市派遣職員8人)
経常収支	1,892,093千円(R5予算) うち、市の財政的関与1,429,525千円(75%)
施設	北九州芸術劇場と響ホール、大手町練習場の運営管理業務を受託

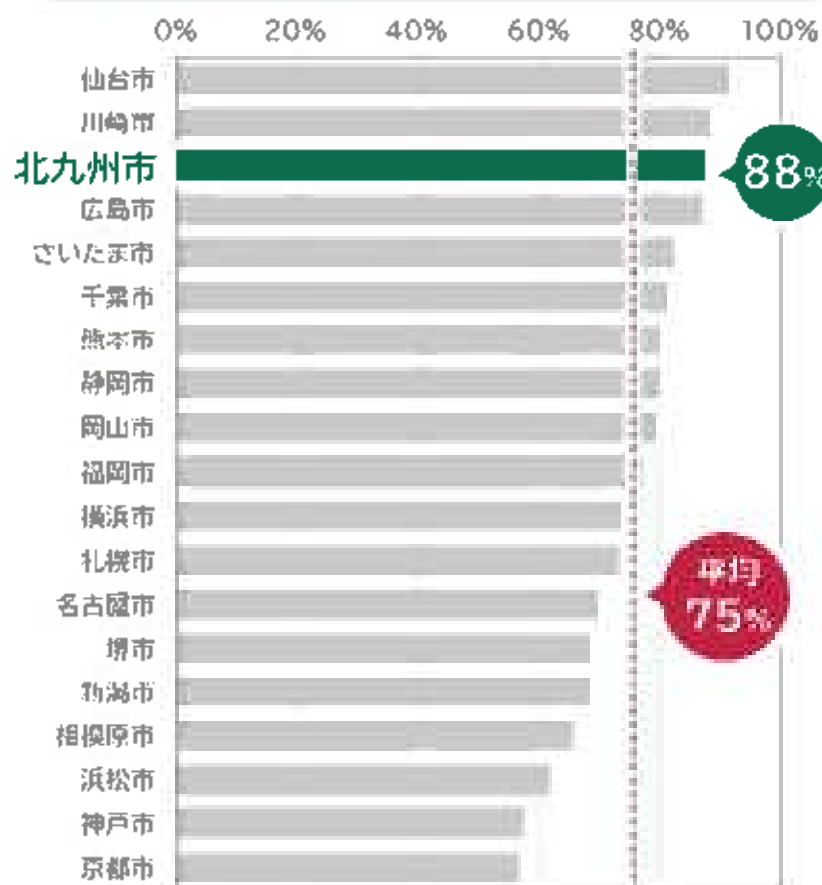
実績・成果(R4)

主な成果指標		目標	実績
公演事業 の入場率	北九州芸術劇場	87%	87%
	響ホール	67.5%	76.3%
公演事業 の満足度	北九州芸術劇場	80%	92.9%
	響ホール	80%	99.1%
施設稼働率(劇場大ホール)		75%	68%

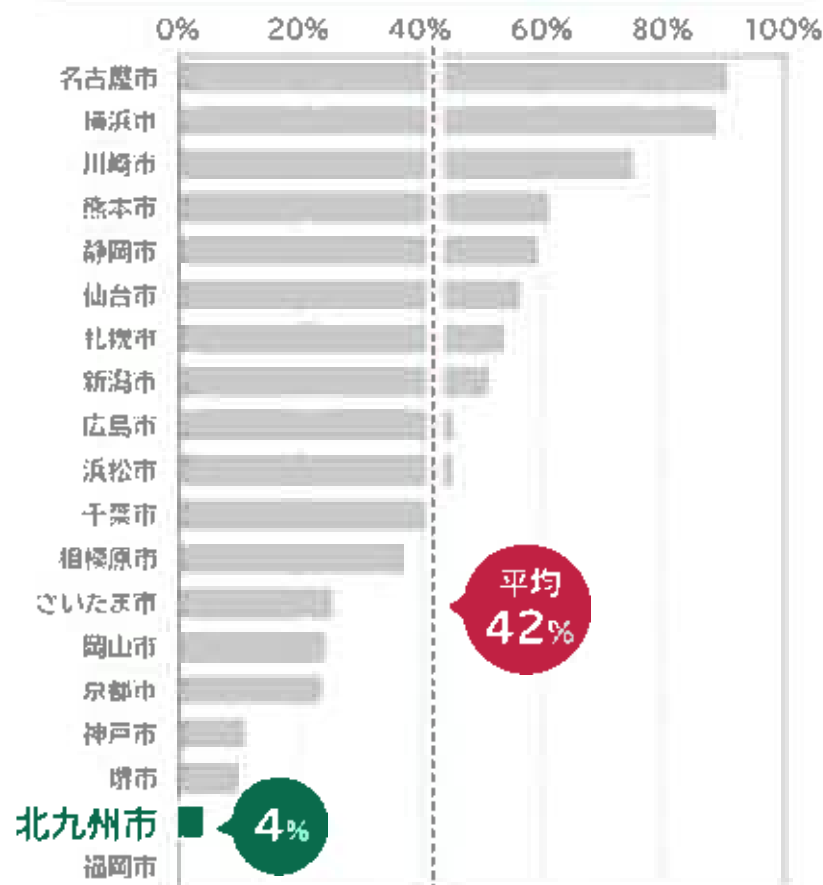
I 文化振興関連の外郭団体に関する政令市比較(ソフト)

- 文化芸術を担う外郭団体に対する市の財政的関与の割合は、政令市平均より高いため、**更なる自主財源の確保が必要**
- 他政令市の外郭団体と比較して、**プロパー職員が著しく少ない**ことから、**長期的ビジョンを持って持続的自律的に組織を運営するためには、組織人員体制の強化が必要**

經常収入に占める市の財政的関与の割合



全職員に占めるプロパー職員の比率



博物館系施設職員配置状況

appendix
R6.4.1時点

(単位:人)

施設名		自然史・歴史 博物館	美術館	科学館	漫画 ミュージアム	文学館	松本清張 記念館	長崎街道 木屋瀬宿 記念館
事務職員	正規	11	7	12	5	4	4	2
	非正規	5	2	9	1	0	1	1
学芸員	正規	18	5	2	1	3	2	0
	非正規	1	5	0	4(2)	0	0	1
合計	正規	29	12	14	6	7	6	2
	非正規	6	7	9	5(2)	0	1	2

※ ()内は、可書の数